

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-5

<第7週>

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い／その他最新動向



注目すべき感染症
P.6-9

<伝染性紅斑>

第7週の定点当たり報告数は0.51となり、第4週以降減少が続いていた報告数が増加に転じた



病原体情報
P.10-11

麻疹ウイルス 2011年



速報
P.12-17

コレラ 2010年／麻しん疑い症例の病原体診断の必要性－茨城県



海外感染症情報

<今週は該当記事はありません>



感染症の話
P.18-21

<HTLV-1感染症>

HTLV-1キャリアおよび関連疾患は、我が国では九州・沖縄地方を含む南西日本に特に多く見られ、先進国の中で唯一HTLV-1の浸淫国である



読者のコーナー
<今週は該当記事はありません>



グラフ総覧(7週)
P.22-27



7週のデータ
P.28-40



発生動向総覧

<第7週コメント> 2月23日集計分

◆全数報告の感染症

注意: これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては一部を除いて発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。

※感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

1類感染症

報告なし

2類感染症

結核314例

3類感染症

細菌性赤痢3例

菌種: *S. flexneri* (B群) 1例__感染地域: 神奈川県

菌種: *S. sonnei* (D群) 2例__感染地域: 鹿児島県1例、インドネシア1例

腸管出血性大腸菌感染症10例 (有症者3例、うちHUS なし)

感染地域: 国内10例

国内の感染地域: 佐賀県2例、青森県1例、千葉県1例、愛知県1例、兵庫県1例、不明4例

年齢群: 10代(2例)、20代(5例)、30代(1例)、40代(1例)、50代(1例)

血清型・毒素型: O26 VT1(3例)、O91 VT1(2例)、O145 VT2(1例)、O157 VT2(1例)、その他・不明(3例)

累積報告数: 96例 (有症者55例、うちHUS 4例、死亡なし)

腸チフス1例

感染地域: インド

4類感染症

A型肝炎6例

感染地域: 埼玉県2例、千葉県1例*、国内(都道府県不明)1例、インドネシア1例、ミャンマー/タイ1例

* 千葉県内の飲食店における食中毒症例。2010年第51週以降、関連症例が報告されている。

つつが虫病2例

感染地域: 茨城県1例、千葉県1例

デング熱2例

感染地域: インドネシア1例、フィリピン1例

レジオネラ症7例 (肺炎型7例)

感染地域: 茨城県2例、千葉県1例、愛知県1例、島根県1例、沖縄県1例、国内(都道府県不明)1例

年齢群: 50代(1例)、60代(2例)、80代(4例)

5類感染症

アメーバ赤痢10例 (腸管アメーバ症7例、腸管外アメーバ症3例)

感染地域: 大阪府2例、北海道1例、東京都1例、新潟県1例、広島県1例、熊本県1例、国内(都道府県不明)3例

感染経路: 性的接触3例(異性間3例)、経口感染2例、その他・不明5例

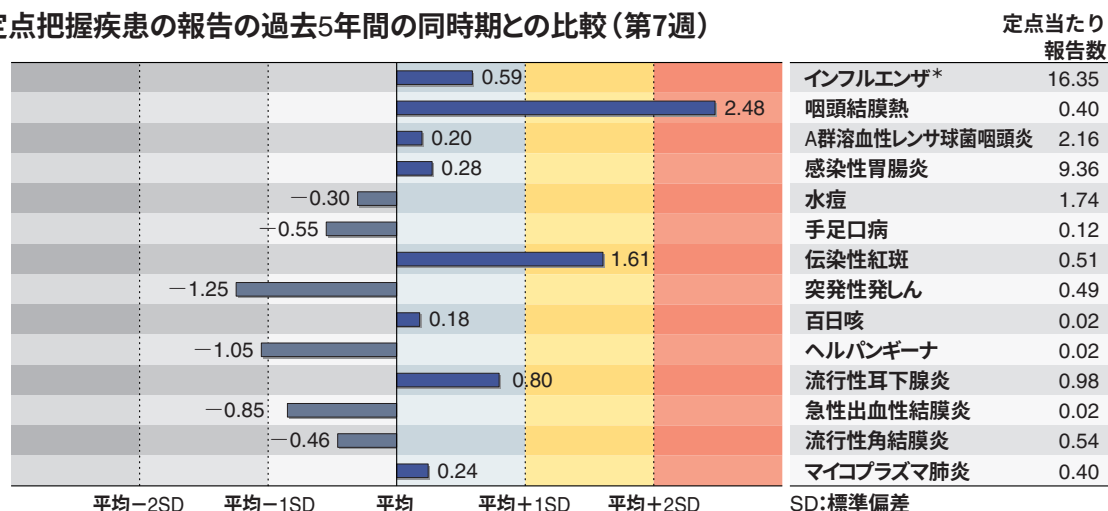
ウイルス性肝炎1例 C型__感染経路: 不明
急性脳炎1例 単純ヘルペスウイルス__年齢群: 60代
劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例
 年齢群: 30代(1例)、70代(2例、うち1例死亡)、90代(1例)
後天性免疫不全症候群15例 (AIDS 5例、無症候8例、その他2例)
 感染地域: 国内15例
 感染経路: 性的接触13例(異性間2例、同性間10例、異性間・同性間不明1例)、不明2例
ジアルジア症1例 感染地域: マダガスカル
梅毒10例 (早期顕症I期2例、早期顕症II期3例、無症候5例)
風しん1例 (臨床診断例)
 感染地域: 国内(都道府県不明)
 年齢群: 25～29歳
麻しん5例 [麻しん(検査診断例1例、臨床診断例2例)、修飾麻しん(検査診断例2例)]
 感染地域: 国内5例
 国内の感染地域: 埼玉県2例、神奈川県1例、岐阜県1例、大阪府1例
 年齢群: 1歳(2例)、10～14歳(1例)、30～34歳(1例)、35～39歳(1例)
 累積報告数: 59例 [麻しん(検査診断例27例、臨床診断例18例)、修飾麻しん(検査診断例14例)]

(補)他に2011年第6週までに診断されたものの報告遅れとして、パラチフス1例(感染地域: ミャンマー)、エキノコックス症1例(多包条虫__感染地域: 北海道)、オウム病1例(感染地域: 鳥取県__感染源: セキセイインコ)、チクングニア熱1例(感染地域: インドネシア)、デング熱1例(感染地域: インドネシア)、急性脳炎7例 [インフルエンザウイルスAH1pdm 4例__2歳(2例)、4歳(1例)、30代(1例)、インフルエンザウイルスA型1例__7歳、インフルエンザウイルス型不明1例__1歳、RSウイルス/インフルエンザウイルス型不明1例__5歳]、クリプトスポリジウム症1例(感染地域: インド)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例 [50代(1例)、70代(1例、死亡)]、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例(遺伝子型: *VanC*__菌検出検体: 血液)などの報告があった。

◆定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第7週)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。(*2009年のパンデミックの影響を受けています。)

インフルエンザ

定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別では愛知県(32.28)、富山県(29.85)、山口県(27.96)、福岡県(25.19)、三重県(22.39)が多い。

小児科定点報告疾患

RSウイルス感染症の報告数は1,501例と減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約71%を占めている。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別では富山県(2.21)、福井県(1.36)、沖縄県(0.94)が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では石川県(7.6)、福井県(5.1)、山形県(4.7)、鳥取県(4.7)、宮崎県(4.7)が多い。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では大分県(19.1)、宮崎県(17.9)、福井県(15.9)が多い。

水痘の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別では山形県(4.90)、沖縄県(4.38)、宮崎県(4.28)が多い。

手足口病の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では沖縄県(1.56)、岩手県(0.43)、高知県(0.43)が多い。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では福岡県(1.65)、宮崎県(1.56)、石川県(1.21)が多い。

百日咳の定点当たり報告数は第4週以降減少が続いている。都道府県別では沖縄県(0.24)、広島県(0.14)、佐賀県(0.09)が多い。

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は増加した。都道府県別では熊本県(0.35)、岩手県(0.15)が多い。

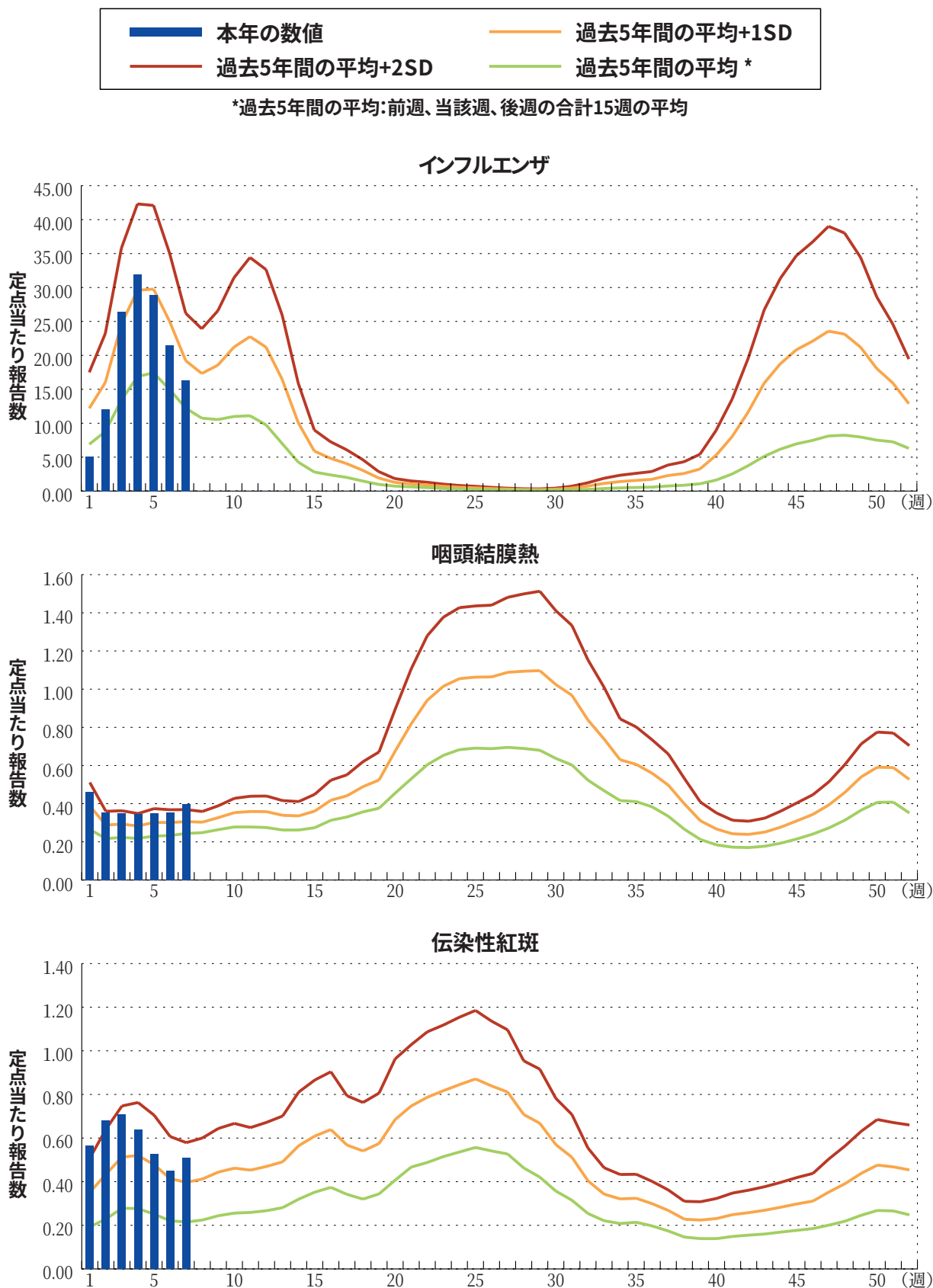
流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では長野県(5.3)、香川県(3.3)、宮崎県(3.1)が多い。

基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では宮城県(2.08)、青森県(1.50)、愛媛県(1.50)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2011年第7週)

青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





注目すべき感染症

◆伝染性紅斑

伝染性紅斑(erythema infectiosum)は4～5歳の幼児を中心に幼児、学童に好発する感染症であり、単鎖DNAウイルスであるヒトパルボウイルスB19(Human parvovirus B19 virus)が本症の病原体である。典型例では両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」と呼ばれることもあるが、本症の周辺には多くの非定型例や不顕性感染例があること、また多彩な臨床像があることなども明らかになってきている。

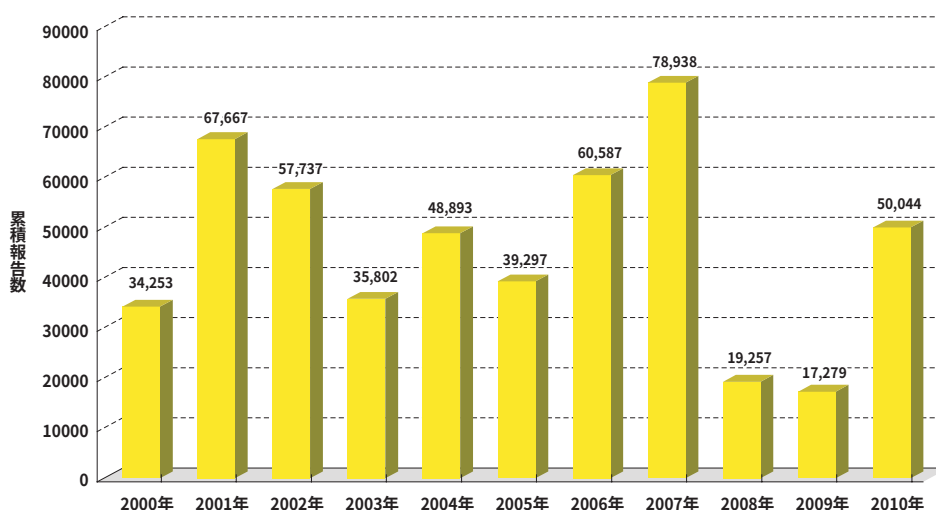
感染後約1週間で軽い感冒様症状を示す例がみられることがあるが、この時期にウイルス血症を起こしており、ウイルスの体外への排泄量は最も多くなる。本疾患の特徴的な症状は感染後10～20日で出現する両頬の境界鮮明な紅斑であり、続いて腕、脚部にも両側性にレース様の紅斑がみられる。体幹部(胸腹背部)にまでこの発疹が出現する例もある。発熱はあっても軽度である。本疾患の大きな特徴として、発疹出現時期を迎えて伝染性紅斑と臨床的に診断された時点は抗体産生後であり、ウイルス血症はほぼ終息し、既に他者への感染性は殆どないといわれている。

成人では、両頬の蝶形紅斑は少ないが、合併症である関節痛・関節炎の頻度は小児では約10%以下といわれているが、成人男性では約30%、成人女性では約60%と高率である。また、妊婦が感染すると、胎児水腫や流産の可能性がある。妊娠前半期の方がより危険性が高いが、後半期にも胎児感染は生じるとの報告もある。その他、溶血性貧血患者が感染した場合の貧血発作(aplastic crisis)を引き起こすことがあり、他にも血小板減少症、顆粒球減少症、血球貪食症候群等の稀ではあるが重篤な合併症が知られている。

感染経路は通常は飛沫感染もしくは接触感染であるが、まれにウイルス血症の時期に採取された血液製剤からの感染の報告がある。本症は紅斑出現の時期には殆ど感染力がないが、反対にウイルス排泄時期には特徴的な症状を呈さないために診断に至らず、実際の二次感染予防策は存在しない。

感染症発生動向調査によると、伝染性紅斑は例年夏季に報告数が増加し、第26週前後がそのピークとなることが多い。1987年、1992年、1997年、そして2000年以降では2001年、2007年とほぼ4～6年ごとの周期で患者発生数の増加がみられている(図1)。2008～2009年の報告数は

図1. 伝染性紅斑の累積報告数年別推移(2000～2010年)



減少し、夏季の流行のピークも定かではない状態が続いていたが、その後2010年の報告数は前年よりも増加し、特に秋季以降は例年よりも高い水準となり、現在まで継続している。2011年第7週の伝染性紅斑の定点当たり報告数は0.51(報告数1,596)となり、第4週以降減少が続いていた報告数が増加に転じた(図2)。都道府県別では福岡県(1.65)、宮崎県(1.56)、石川県(1.21)、宮城県(1.12)、鳥取県(0.95)の順であり、31都府県で前週の報告数よりも増加がみられた(図3)。2011年第1～7週までの定点当たり累積報告数は4.07(累積報告数12,842)であり、2000年

図2. 伝染性紅斑の年別・週別発生状況(2001～2011年第7週)

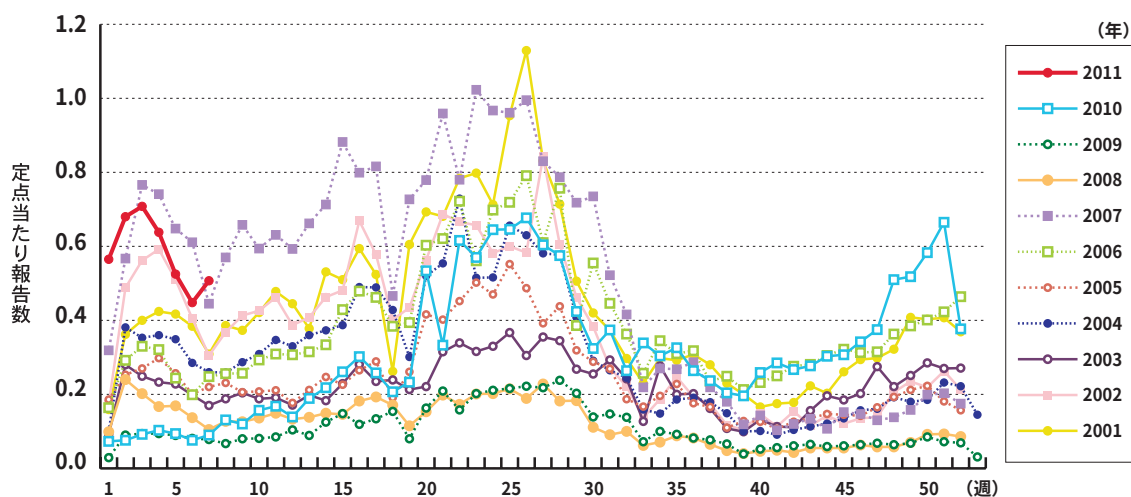
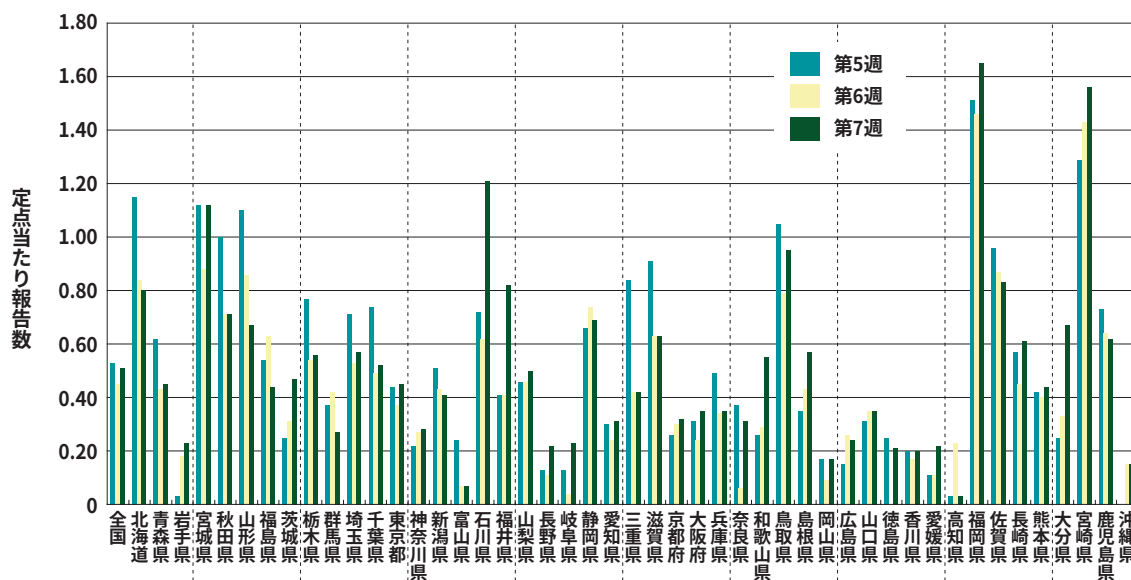


図3. 伝染性紅斑の都道府県別定点当たり報告数の推移(2011年第5～7週)



以降では2007年に次いで多くなっている。年齢群別割合をみると、4～5歳が32.9%と最多であり、次いで6～7歳(25.9%)、2～3歳(17.0%)、8～9歳(12.2%)の順となっており、7歳までで全報告数の75%以上を、9歳以下で90%以上を占めているのは例年と同様である(図4、図5)。

図4. 伝染性紅斑累積報告数の年齢群別割合(2011年第1～7週)

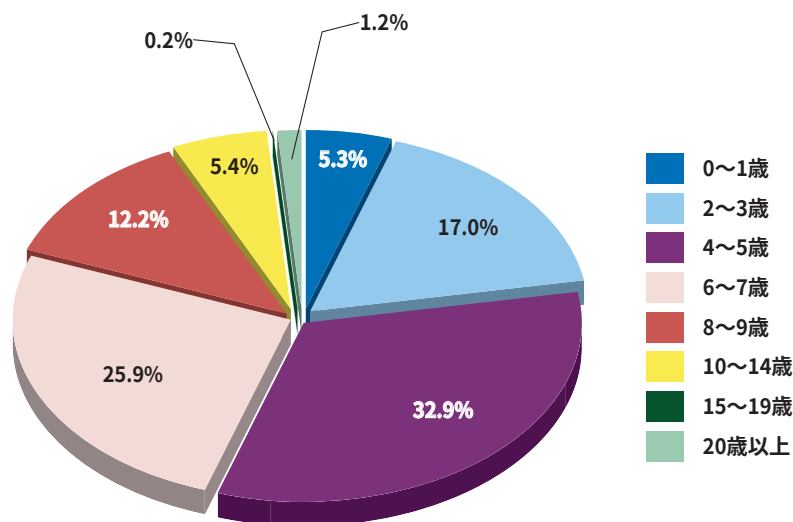
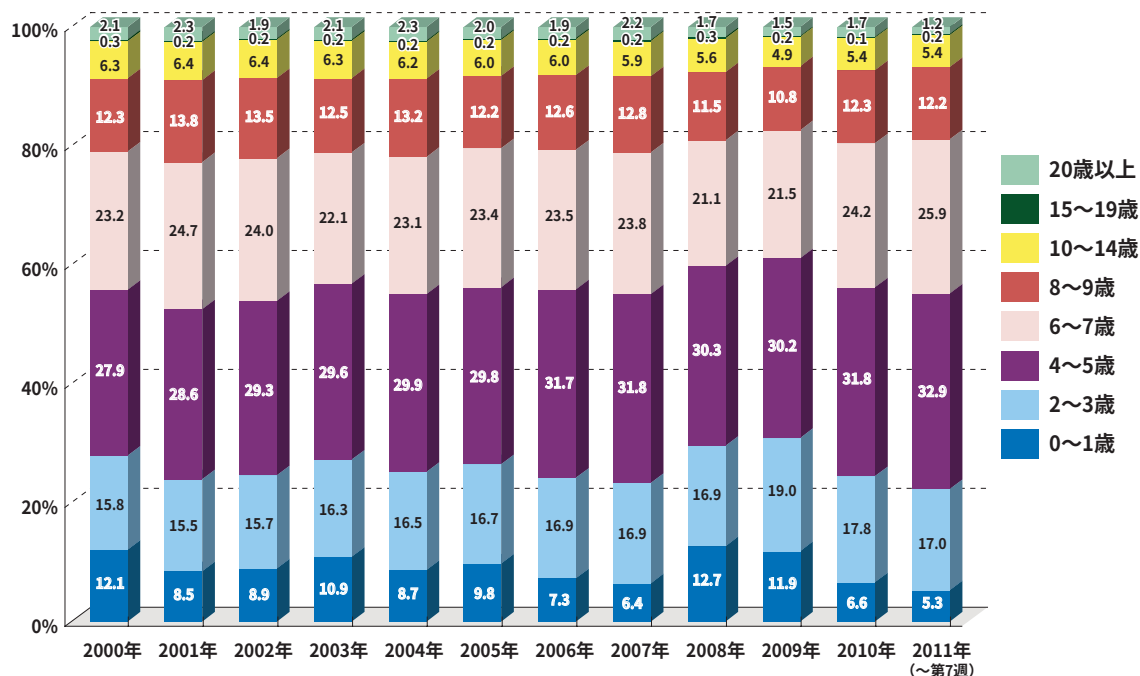


図5. 伝染性紅斑の年別・年齢群別割合(2000～2011年第7週)



伝染性紅斑の報告数は2010年秋季より例年よりも増加した状態となり、2011年第7週現在も同様の状況が継続している。2007年の流行時は、前年の2006年秋季頃より報告数が例年よりも多い状態となり、同様の状況が2007年の夏季まで継続した。おそらく、伝染性紅斑の報告数は今後とも例年よりも増加した状態が継続し、2011年の夏季の流行のピークを迎えることになるかと推測される。伝染性紅斑は、多彩な臨床像を呈することからも、実際に診断されているのは感染者の中の一部である可能性があり、加えて紅斑や発疹が出現して臨床的に診断が容易になる前に周囲への感染性があることより、その感染対策は極めて困難であると言わざるを得ない。保育園、幼稚園、小学校等の小児の集団生活施設で流行が発生している際には、その流行が収束するまでの間、妊婦等が施設内に立ち入ることを制限することを考慮すべきである。今後とも伝染性紅斑の発生動向には注意が必要である。



病原体情報

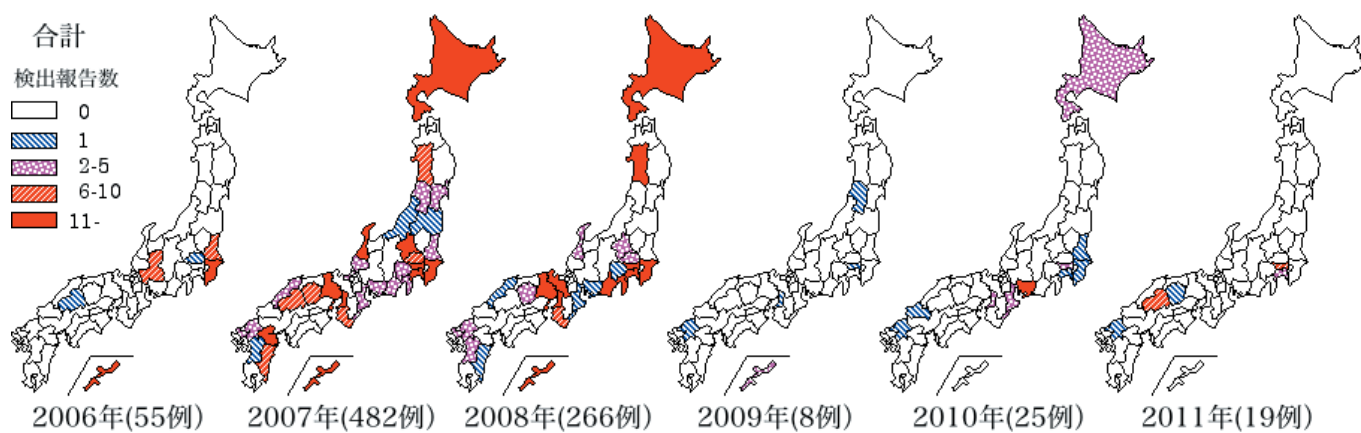
* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

国立感染症研究所・感染症情報センターには各都道府県市の地方衛生研究所(地研)から「病原体個票」と「集団発生病原体票」が報告されています。これには感染症発生動向調査の定点およびその他の医療機関、保健所等で採取された検体から検出された病原体の情報が含まれています。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2011年2月24日現在報告分)

◆麻疹ウイルス 2011年

都道府県別麻疹ウイルス分離・検出報告状況、2006～2011年 (病原微生物検出情報: 2011年2月24日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

2011年1～2月に東京都、神奈川県、岡山県、広島県、福岡県の5都県から19件の麻疹ウイルスの分離・検出が報告されている。

D4型: 1月東京都1件、英国から入国する2日前に発症した患者から

D9型: 1月8件、2月7件、計15件

- ・ 東京都1月2件、シンガポール・スリランカから帰国する3日前に発症した患者とフィリピンから帰国して9日後に発症した患者から
- ・ 東京都2月2件、渡航歴のない散发例2例から
- ・ 神奈川県1～2月2件、フィリピンから帰国して7日後に発症した患者とその家族から
- ・ 広島県1月5件、2月4件、フィリピンから帰国した翌日に発症した患者1例とその周囲への感染拡大による集団発生例6例、および地域の散发例2例から

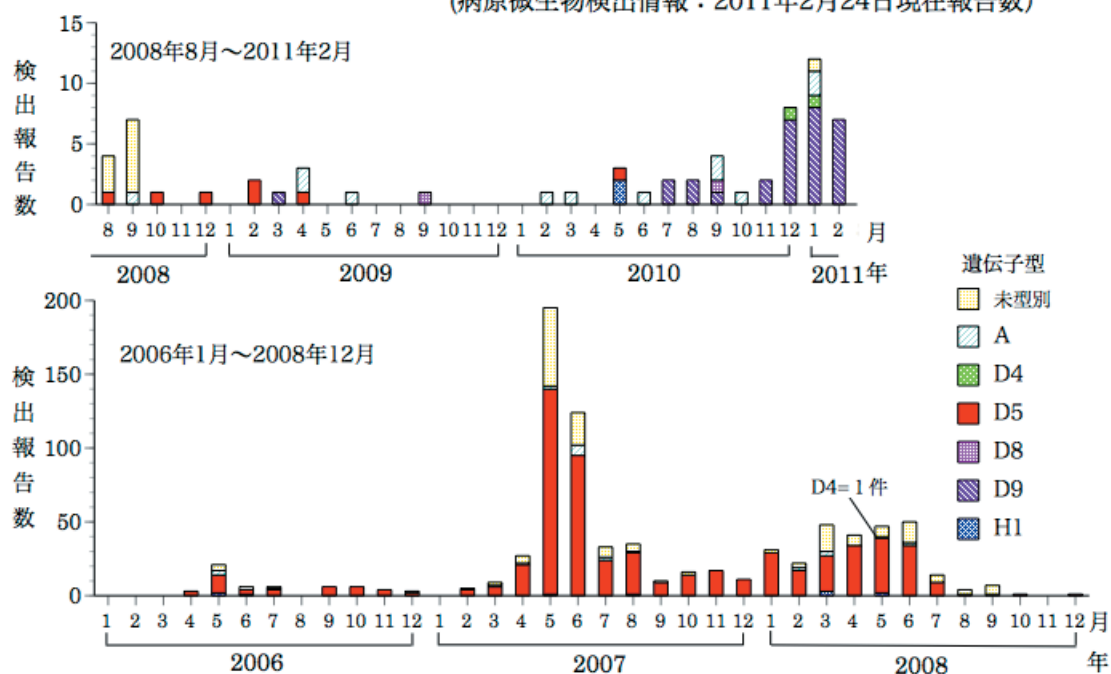
未型別: 1月岡山県1件、フィリピンから帰国して8日後に発症した患者から

A型(ワクチンタイプ): 1月2件

- ・ 東京都1月1件、発疹症患者、ワクチン接種13日後に採取された検体から
- ・ 福岡県1月1件、麻疹疑い患者、ワクチン接種歴不明

月別麻疹ウイルス分離・検出報告数、2006年1月～2011年2月

(病原微生物検出情報: 2011年2月24日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

IASR

Infectious Agents Surveillance Report



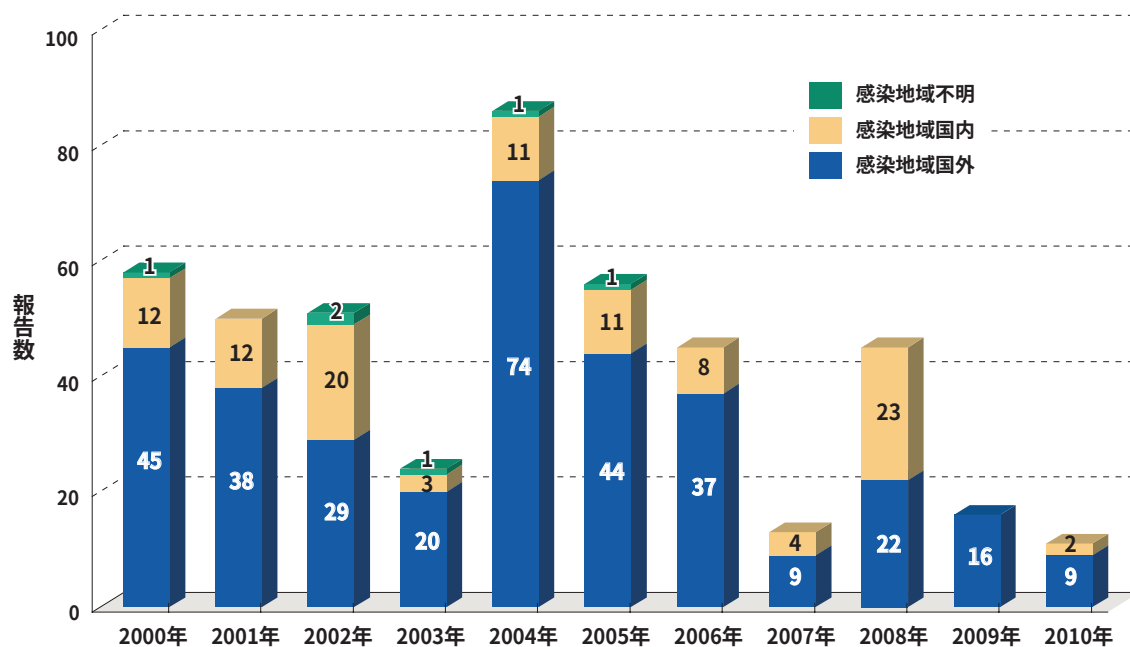
◆コレラ 2010年 (2011年2月25日現在)

コレラは1～5日(通常1日以内)の潜伏期の後に、下痢や嘔吐で急激に発症する腸管感染症である。殆どの場合、腹痛や発熱はみられない。典型的症状は激しい水様性下痢(重症例では米のとぎ汁様)と脱水であるが、近年の報告症例では軽症であることが多い。しかし、胃腸の弱い人(胃切除者など胃酸の働きが低下している人)や高齢者、乳幼児では重症化して死亡することもあり、軽視できない疾患である。

コレラは1999年4月施行の感染症法に基づく2類感染症として、疑似症患者、無症状病原体保有者を含む症例の届出が、診断した全ての医師に義務づけられた。2007年4月施行の法改正により、コレラは3類感染症に変更され、患者及び無症状病原体保有者が届出対象(疑似症患者は対象外)となった。また、WHOの報告基準では、コレラ毒素産生性のO1血清型コレラ菌およびO139血清型コレラ菌によるものと定義されており、わが国でも同じ定義を用いている。

過去の年間報告数は1999年(4月～)39例、2000年58例、2001年50例、2002年51例、2003年24例、2004年86例、2005年56例、2006年45例、2007年13例、2008年45例、2009年16例で、2010年は11例であった(図1)。

図1. コレラの年別・感染地域別報告数(2000～2010年)



2000～2007年3月：患者、疑似症患者、無症状病原体保有者
 2007年4月～2010年：患者、無症状病原体保有者

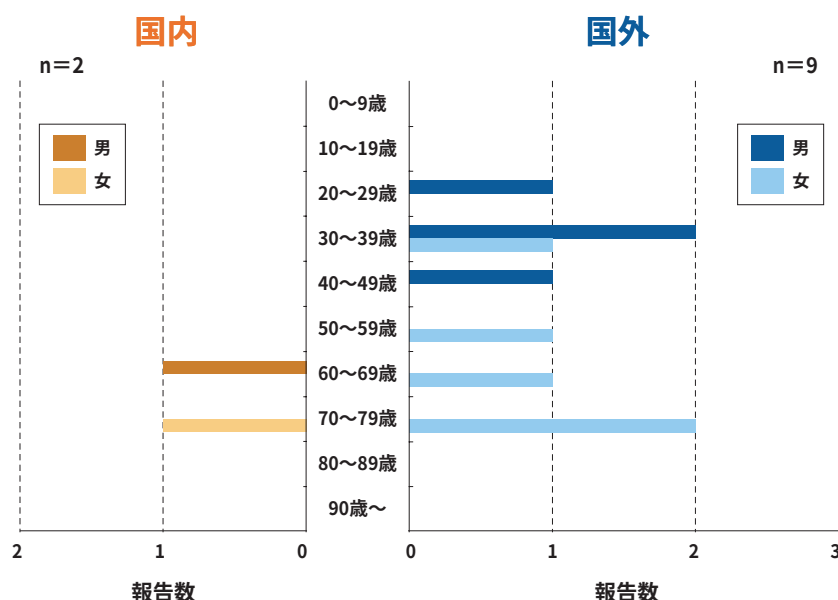
2010年の11例は全例が患者(有症状者)であった。性別は男性5例、女性6例で、年齢中央値は52歳(25～78歳)であった。確定または推定として報告された感染地域は、国内が2例、国外が9例であった。死亡の報告はなかった。ただし、届出時点以降での死亡については十分反映されていない可能性があり、発生があった場合の追加・修正報告を自治体に依頼している。

11例について報告された症状としては、下痢・軟便は全例にあり、そのうち、米のとぎ汁様の下痢は2例(18.2%)にみられ、他に嘔吐、脱水が各4例(36.4%)、体重減少、血圧低下、無尿が各2例(18.2%)、チアノーゼ、頻脈、虚脱が各1例(9.1%:同一症例)であった。筋痙攣と胃切除歴の報告はなかった(以上は届出様式に記載されていて選択された症状)。また、その他の症状として、3例に腹痛または胃痛の自由記載があった。

診断のための検査は、届出基準に従い、全例が便からの菌分離と毒素の確認がなされていた。毒素確認方法は、毒素産生の確認5例、PCRによる毒素遺伝子の確認5例、両方による確認1例であった。

国内を感染地域とする2例は、60代男性1例と70代女性1例であった(図2)。感染した都道府

図2. コレラの感染地域別・性別・年齢群別報告数(2010年) n=11



県(推定または確定として報告されたもの)は、各々茨城県と青森県であった。発症月は60代男性が不明、70代女性は2月であり、ともに届出内容や報告自治体への問い合わせの結果、感染原因・感染経路は不明で、いずれも散发例と考えられた(図3)。コレラ菌の型はいずれもO1小川型で、生物型は1例がエルトル型、もう1例は検査未実施であった。

国外を感染地域とする9例は、性別では男性4例、女性5例であり、年齢群別では20代1例、30代3例、40代1例、50代1例、60代1例、70代2例で、年齢中央値は40歳(25～73歳)であった(図2)。発症月別にみると、9月が3例で最も多く、次いで8月が2例、1月、5月、10月が各1例であった(図3)。感染国別では、インドが5例で最も多く、次いでインドネシア2例、タイとマレーシアが各1例であった(図4)。コレラ菌の型は9例すべてがO1エルトル小川型であった。

図3. コレラの感染地域別・発症月別報告数(2010年)

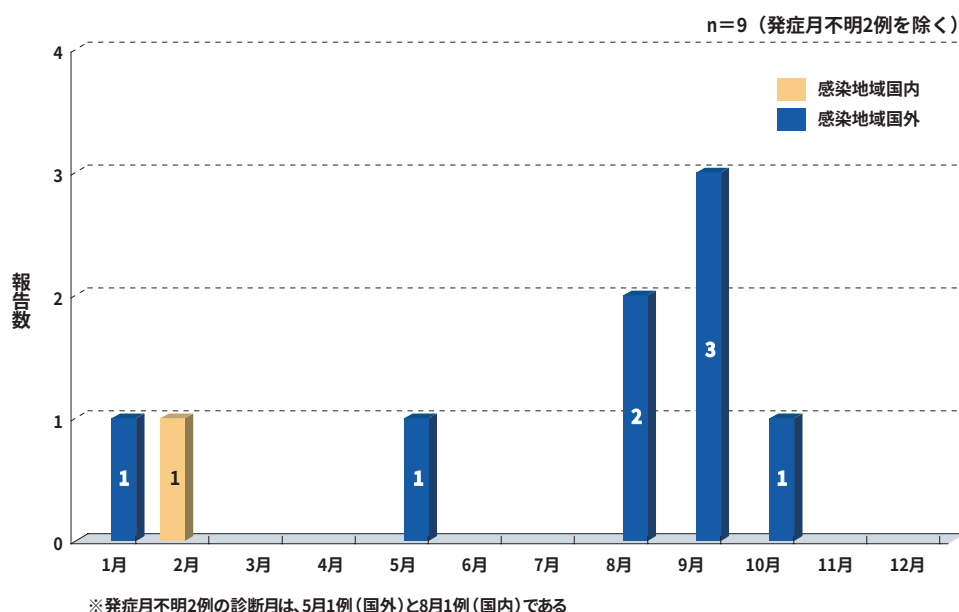
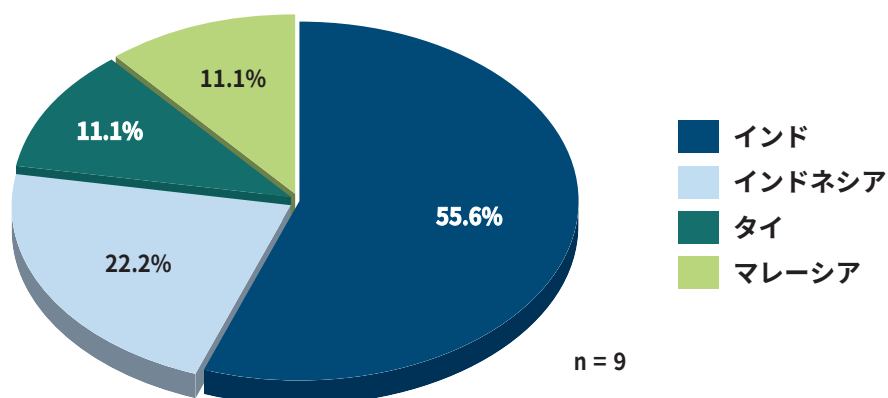


図4. コレラの感染国割合(2010年)



報告数の増減は、流行の発生、流行地への渡航、集団感染の発生など様々な要因が関与すると考えられる。検疫法改正により2007年6月以降は原則的には検疫所で検便が実施されなくなったことも一要因として考慮する必要がある。検疫所からの報告は、2006年(4～12月)5例、2007年1例(5月に診断)であったが、2008～2010年は報告がなかった〔届出医療施設名が国まで報告されるようになったのは2006年4月以降〕。

予防策としてのワクチンは、コレラの高度流行地域へ出かける援助関係者などが接種の適応者と考えられ、一般の海外旅行者での必要性は通常高くはない。わが国には従来不活化注射ワクチンがあったが、現在は販売されていない。海外では経口ワクチンが販売されており、必要に応じて接種機関の輸入などにより、接種されている。

コレラは途上国において未だくりかえし流行し、時に多くの命をうばっている疾患である。渡航に際しては、各種感染症の流行情報を把握し、コレラ流行地域へ渡航する場合には、生水、氷、生の魚介類、生野菜、カットフルーツなどを避けることが肝要であり、また、無理な旅行日程などによって体調をくずし、抵抗力を落とさないよう心がけることも大切である。

◆麻しん疑い症例の病原体診断の必要性－茨城県

はじめに: 厚生労働省は、2012年までにわが国から麻しんの排除を達成することを目指して「麻しんに関する特定感染症予防指針」を策定し、定期予防接種の追加や麻しんの全数報告の実施などに積極的に取り組んできた。その結果、全国で2008年に11,015人あった患者報告数は2010年には457人まで減少し、茨城県においても97人から5人にまで激減した。一方で、麻しんの臨床診断が困難であるという新たな問題が浮上している。本県では、2010年4月より麻しんが疑われるすべての患者を対象に、麻しんの検査診断を実施しているが、当所において咽頭ぬぐい液および血漿について遺伝子検査(RT-PCR法)とIgM抗体検査を実施した結果、麻しんウイルスが検出された検体は43例中1例のみであった。

また、茨城県では麻しんの検査診断を行うすべての患者に対し、保健所が疫学調査を実施している。今回、麻しんウイルスが検出された症例は上海への渡航歴が把握されており、その後の遺伝子解析でH1型の輸入例であることが確認された。その他の42例はすべて散发例であり、患者の周辺には麻しんの流行はなく、麻しん患者との接触歴がある者はいないことが把握されている。

麻しんの臨床診断が困難となってきている現状は、麻疹排除達成に向かう過程においては必然的な状況と考えられるが、今後、麻しんの診断をより確実なものにするための一助として本県の取り組みを報告する。

目的: 麻しんウイルスが検出されなかった検体について、すべての症例に共通である「発熱」と「発疹」を主症状とする突発性発疹、伝染性紅斑、風しんの病原体検索を試みる。

材料と方法: 麻しんウイルス不検出検体42例中、血漿検体が得られた38例を材料とし、ヒトヘルペスウイルス6型(HHV6)、ヒトヘルペスウイルス7型(HHV7)、パルボウイルスB19型(PVB19)、風しんウイルスの遺伝子検査を実施した。

結果: HHV6が12例、HHV7が2例、PVB19が1例検出された。風しんウイルスはすべて不検出であった。

38例の麻しんウイルスIgM抗体検査は、7例が陽性もしくは判定保留であったが、その7例のうち5例からヒトヘルペスウイルスが検出された。ヒトヘルペスウイルスについては、すでに病原微生物検出情報(IASR 31:269-271,2010)により、麻しんウイルス不検出で麻しんIgM抗体陽性の症例の同一血漿からHHV6 variant BのDNAが検出された報告があるが、当所でもHHV6・HHV7のDNAが検出された。

年齢別検査状況は、3歳未満が22人で全体の約58%を占めている。麻しんワクチン接種状況は、接種歴有りが22例、無しが14例、不明が2例で、ワクチン未接種14例のうち11例が2歳未満であった。

考察: 麻しんウイルス不検出検体から、ヒトヘルペスウイルスやパルボウイルスが検出されたことから、麻しんは臨床診断のみで診断することが難しくなっている現状がうかがわれ、検査診断の必要性が示唆された。さらに、麻しんウイルスIgM抗体検査にはその精度に限界があることから、確定診断にはウイルス遺伝子検査およびウイルス分離を実施することが望ましいと思われる。

麻しんの診断については、患者の既往歴、ワクチン接種歴、疫学情報、症状、検査所見等から総合的に判断されることはいうまでもないが、今回HHV6あるいはHHV7が検出された症例の半分はワクチン未接種者であり、もし臨床診断や麻しんウイルスIgM抗体検査のみで麻しんと診断された場合、麻しん罹患歴ありと認識され、その後、麻しんワクチンの接種対象年齢であっても接種を受けない可能性が考えられる。このことは、本人の麻しん予防に対し不利益を生じて

しまうことになる。

以上のことから、麻しんの診断には、ウイルス遺伝子検査診断が重要であり、麻しん排除達成までの過程においては、発熱や発疹などの症状を呈する類似の疾患との鑑別が必要であると思われる。

ついては、今後、HHV6・HHV7やパルボウイルス等についても麻しんウイルスと同時に検出できるマルチプレックスリアルタイムPCR法の開発が望まれる。

最後に、いずれの疾病もウイルス遺伝子検査については、適切な時期に検体採取が行われることが最も重要であり、よりの確な時期に最適な検体採取ができるような医療現場との協力体制が不可欠と考える。

謝辞: 検査にあたりご協力をいただきました国立感染症研究所感染症情報センター第三室長の多屋馨子先生、ウイルス第一部第四室長の井上直樹先生、ウイルス第三部第三室長の駒瀬勝啓先生に深謝いたします。

参考文献

- 1) IASR 31: 33-48, 2010
- 2) IASR 31: 265-271, 2010
- 3) 「病原体検査マニュアル」国立感染症研究所・全国 地方衛生研究所全国協議会編

茨城県衛生研究所

永田紀子 土井育子 笠井 潔 増子京子 原 孝 杉山昌秀

(IASR 2011年3月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



感染症の話

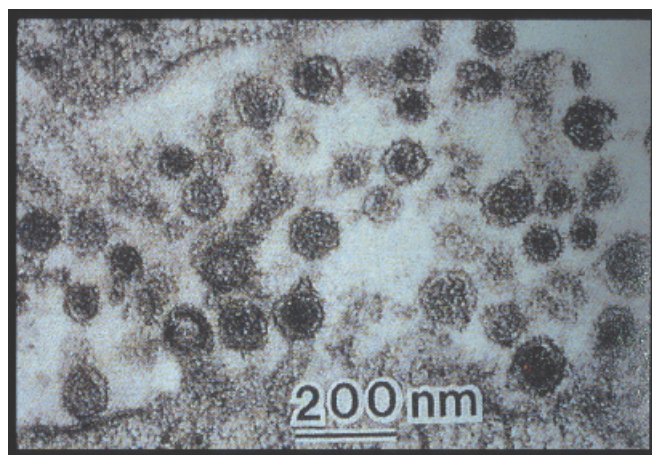
◆HTLV-1感染症

ヒトT細胞白血病ウイルス1型(Human T-cell leukemia virus type 1: HTLV-1)は成人T細胞白血病・リンパ腫(Adult T-cell leukemia: ATL)、HTLV-1関連脊髄症(HTLV-1 associated myelopathy: HAM)およびHTLV-1ぶどう膜炎(HTLV-1 uveitis: HU)などの疾患を引き起こす。これらのHTLV-1関連疾患はHTLV-1感染者(キャリア)から発症するが、キャリアの大部分は無症状である。HTLV-1キャリアおよび関連疾患は、我が国では九州・沖縄地方を含む南西日本に特に多く見られ、先進国の中で唯一HTLV-1の浸淫国である。

病原体

HTLV-1は、1980年にヒトの初めての病原性レトロウイルスとしてGallo R.博士らにより単離・報告された。HTLV-1は直径が約100nmのほぼ球状のウイルス粒子で、エンベロープを有する。その内部にRNAゲノムを保持し、そのゲノムは*gag*, *pro*, *pol*, *env*, *pX*の遺伝子で構成される。HTLV-1は、ウイルス粒子自身での感染性は弱く、細胞－細胞間による感染伝播が主流である。感染細胞のほとんどは、CD4陽性T細胞であるが、受容体はCD4分子ではなく、他の蛋白分子やヘパラン硫酸の関与が考えられている。

写真1: HTLV-1の電子顕微鏡写真



感染経路・予防

HTLV-1の主な感染経路は母子感染(垂直感染)、性感染(水平感染)および輸血の3つである。献血者の抗体スクリーニングが開始されて以降は、輸血による感染は見られていない。現在では、母子感染、特に母乳を介した感染が主要な感染経路と考えられている。母乳による感染に対しては、断乳や人工乳による予防が浸淫地域で試みられており、一定の効果を挙げている。

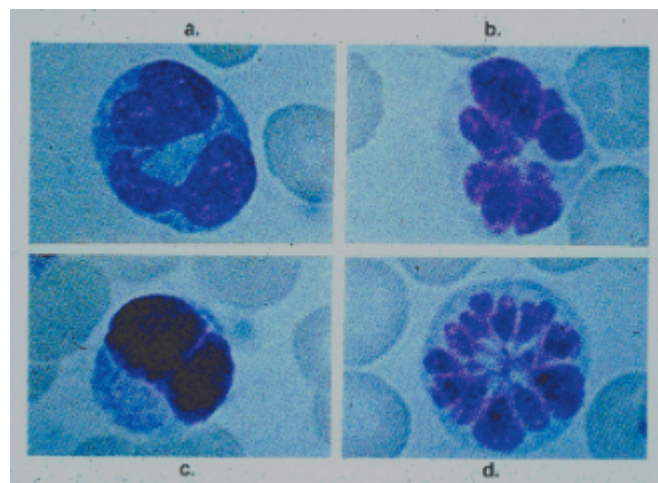
関連疾患の臨床症状

ATLは、その典型例では末梢血に花びら様の異常リンパ球が出現し、全身の各種臓器に浸潤する悪性の血液腫瘍であり、1977年に高月清博士らにより最初に報告された。また、1981年

にはHTLV-1がATLの原因ウイルスであることが日沼頼夫博士らにより明らかにされた。ATLは未だに有効な治療法がなく、特に急性型およびリンパ腫型ATLは現在の最新の治療法によっても捗々しいものではなく、血液腫瘍の中でも最も予後不良な疾患のひとつである。

HAMは、納光弘博士らにより報告され、緩徐進行性で対称性の脊髄症で、歩行障害や膀胱・直腸障害などの症状を呈するが、この疾患に関しても有効な治療法は確立されていない。

写真2：花びら様の異常リンパ球



HUは、望月學博士らにより報告され、突発性の飛蚊症、霧視、軽度の視力低下などの症状を呈し、治療反応性は良好だが再発も多い。

従って、これらのHTLV-1関連疾患に有効な治療法の開発は、我が国の医療行政上においても喫緊の課題である。また、それと同時に、HTLV-1の感染予防とキャリアからの発症予防法の開発も重要な課題である。これらの課題はHTLV-1浸淫国である我が国が取り組む責任があり、その研究成果は国際的にも貢献しうるものである。

歴史・日本人による成果

我が国では、HTLV-1やその関連疾患が日本人らにより発見された1980年頃以来、約10年の間研究プロジェクトが組織され、基礎および臨床における共同研究が精力的に推進された。その結果、1) HTLV-1ゲノムの全塩基配列の決定、2) ATLの臨床病型分類の確立、3) HTLV-1 Tax遺伝子による病原性発現機構の解明、4) HTLV-1の感染経路の解明、5) 輸血スクリーニングや断乳・人工乳によるHTLV-1感染予防効果の証明など、目覚ましい成果を挙げた。しかしその後、HTLV-1および関連疾患は“将来消え行くウイルス”、“九州・沖縄の風土病”などという概念や考え方が急速に広まったため、特に1990年代の後半以降、HTLV-1感染と関連疾患に関する組織的な研究や対策などは十分には講じてこられなかった。

疫学・最近の動向

全国のHTLV-1キャリアの実態は1990年に120万人前後と推定されたが、それ以降調査はなされておらず、最近の実態は不明のままであった。ATLに関しては、厚生労働省の人口動態統計の死因別分類から、2000年以降毎年1,000人以上がATLで亡くなっていることが分かり、1996年～1997年のT・Bリンパ腫研究グループによる第9次ATL全国実態調査で報告された年間発症

数の700例と比較して、患者数が増加していることが示唆された。

そこで、2008年度～2010年度に厚生労働科学研究班「本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策」(研究代表者: 国立感染症研究所 血液・安全性研究部 山口一成)が組織され、全国的なHTLV-1キャリア及び関連疾患の実態調査が行われた。その中で、全国の初回献血者の抗体陽性者の調査から、全国のキャリア数が約108万人と推定され、九州・沖縄地方のキャリアの割合が減少している一方、関東地方と近畿地方の大都市圏での増加が示され、我が国のHTLV-1キャリアは依然として多数存在し、全国に拡散する傾向があることが指摘された。また、ATLの実態調査では、年間発症数が1,146例と推測され、高齢者を中心に今後も持続的にATLが発症すると考えられた。HAMの実態調査では、新規に発症し診断される患者が増加傾向にあり、患者が九州地方以外の大都市でも多くみられることが報告された。そこで全国一律の母子感染対策、即ち妊婦スクリーニングが厚生労働省科学研究班(齋藤班)から提起され、実行に移されようとしている。

また最近ATLに関しては、HTLV-1感染者コホート共同研究班(Joint Study on Predisposing Factors of ATL Development: JSPFAD)が組織され、その研究の中でATL発症に関わるリスク因子がいくつか明らかになっており、特に末梢血リンパ球の高ウイルス量(感染細胞数)のATL発症への関与を示すデータが集積されつつある。HAMに関しては、その稀少性ゆえに病態解明や治療薬開発のための研究が進展しにくい面があったが、HAM患者およびHTLV-1キャリアの患者会等の多大な尽力により、2008年にHAMが特定疾患(難病)に指定され、難治性疾患克服研究事業の対象疾患として組織的な研究が開始されている。

ATLの診断・予後

ATLは様々な病態から、急性型、リンパ腫型、慢性型、くすぶり型の4病型に分類されている。急性型およびリンパ腫型ATLは、aggressive ATLとも呼ばれ、最も予後の悪い造血器悪性腫瘍である。慢性型およびくすぶり型ATLは、indolent ATLとも呼ばれるが、その大多数が経過中に急性転化し、その長期予後は不良である。

ATLはその病型に応じて治療法を選択する必要がある。ATLに対する代表的な治療法としては多剤併用化学療法がある。しかし、最新の報告でもaggressive ATLの生存期間中央値は13カ月にとどまっており、満足できるものではない。Indolent ATLの患者に対しては、無治療でも長期生存する場合があります、急性転化などで病勢が悪化するまでは無治療のまま経過観察されることが多い。

九州・沖縄地方等のHTLV-1浸淫地域ではATL診療に経験のある専門の医師が多く、拠点となる病院が形成されている。しかし、HTLV-1非浸淫地域である関東や近畿地方等の大都市圏では、キャリアとATL患者の実数がHTLV-1浸淫地域に匹敵するにもかかわらず、ATLを専門的に診療できる医師が少ないことで、HTLV-1浸淫地域と非浸淫地域における診療レベルに差異がある可能性がある。

ATLの治療

Aggressive ATLに対する多剤併用化学療法に関しては、日本臨床腫瘍グループ(Japanese Clinical Oncology Group: JCOG)のリンパ腫班(Lymphoma Study Group: LSG)を中心に臨床試験が継続的に行われている。また近年、aggressive ATLに対する根治療法として同種造血幹細胞移植療法が注目されており、特に骨髄非破壊的な移植療法、いわゆる“ミニ移植”は比較的高齢の患者にもその有効性が期待されているが、まだ結論に至っていない。さらに、欧米ではインタ

ーフェロンαと抗エイズ薬のアジドチミジンを併用した“抗ウイルス療法”の有用性が報告されている。Indolent ATLの治療法に関しては、組織的な臨床試験は現在のところ行われていない。

ATLを含むT細胞リンパ腫に対する新規薬剤を用いた臨床試験がいくつか進行中または計画されている。その中でも、我が国で開発された抗CCR4抗体(KW-0761)を用いた臨床試験は、抗体医薬を用いたATLに対する国内で初めての臨床試験である。ATLの再発・治療抵抗例に対し、第I相試験では、奏効率31.3%、臨床奏効率43.7%が得られ、第II相試験では奏効率50.0%が得られている(2010年米国血液学会報告)。このように、ATLに対する標的分子の解析や治療法への応用などが試みられており、これまで実験室レベルで臨床応用が困難であった治療薬開発に関する研究の、今後の飛躍的な発展が期待される。

HAMの診断・予後

HAM患者の少ないHTLV-1非浸淫地域において、一般医師の本疾患に対する認識度は薄く、診断がつくまでに年単位で時間を要する場合がある。その間に症状が進行し、重症化する患者がいまだに見られる。また、診断がついても、専門の医師が少ないため、疾患活動性の評価に必要な検査が行われず、病状に応じた適切な治療を受けることのできない場合もある。HAM患者は、軽症から重症まで個人差が大きく、疾患活動性や重症度に応じて治療内容を選択し、できるだけ重症化を予防する治療方針を立てる必要がある。重症化した場合、たとえ適切な治療を受けても、生活の質の低下の大きな原因となる歩行障害や排尿障害、難治性の疼痛などの症状は残る場合が多いため、長期にわたる対症療法を含め、自己導尿管理やリハビリテーションなどが必要不可欠である。しかし、患者の日常生活に沿った医療体制の整備は全国的にも十分とは言い難い。生命予後は一般的には良好である。

HAMの治療

HAM発見時より、抗炎症作用や免疫制御による様々な治療法が試みられている。経験的にも副腎皮質ステロイドが最も有効であるが、長期投与による副作用が認められ、それにより減量あるいは中止でしばしば症状の再燃が見られる。また、抗ウイルス作用などが期待される天然型インターフェロンαは、その有効性が確認され保険適用となっているが、副作用などの問題があり、長期的な有効性についてはまだよく分かっていない。最近、HAMの発症や病態にウイルス量の増加が関連していることが明らかとなっており、HTLV-1感染細胞数を減少させる抗ウイルス療法の開発が期待されている。しかし、現在のところ、抗エイズ療法に準じて使用された抗レトロウイルス薬が顕著に奏効した報告はない。

HUの診断・治療

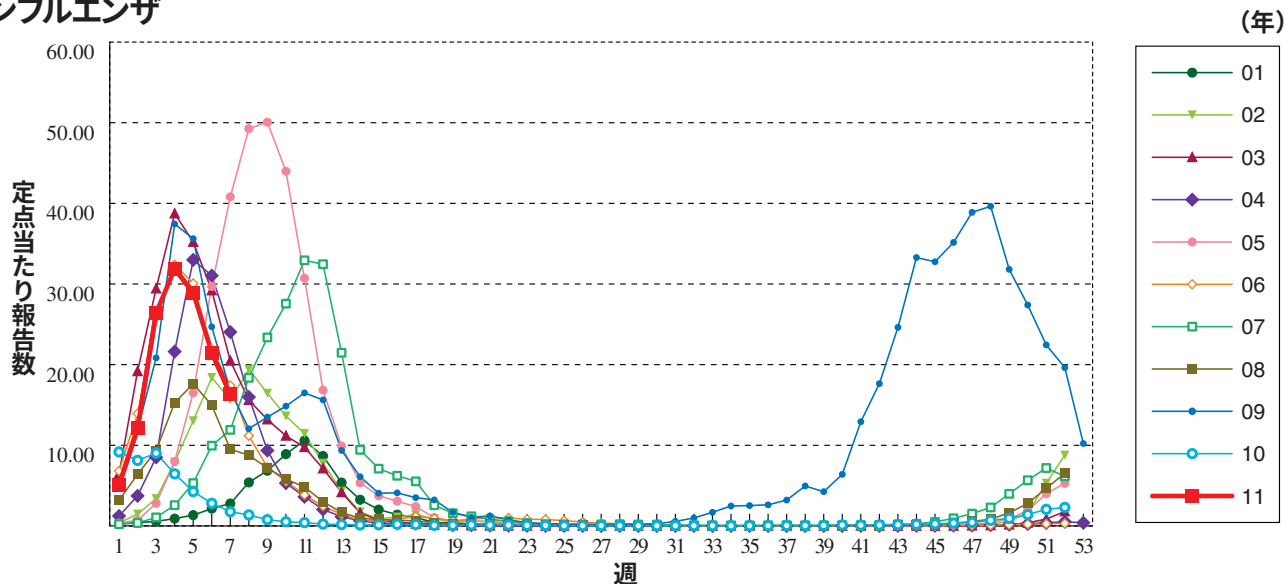
軽度の炎症の場合は自然治癒することもあるが、中等度以上の炎症を伴う場合は副腎皮質ステロイドの局所療法(点眼など)と内服が有効である。ステロイド治療によく反応するため、短期的には視力予後は良好である。しかし、投薬を中止すると約60%の症例で再発が見られ、それに対してもステロイド療法を行うことで、比較的良好な効果が得られる。長期的には白内障や緑内障などの合併症が生じ、視力予後不良例も多い。既往歴として、Graves病の頻度が有意に高く、その発症要因に自己免疫機序が関与していると考えられている。

(国立感染症研究所血液・安全性研究部 山口一成)

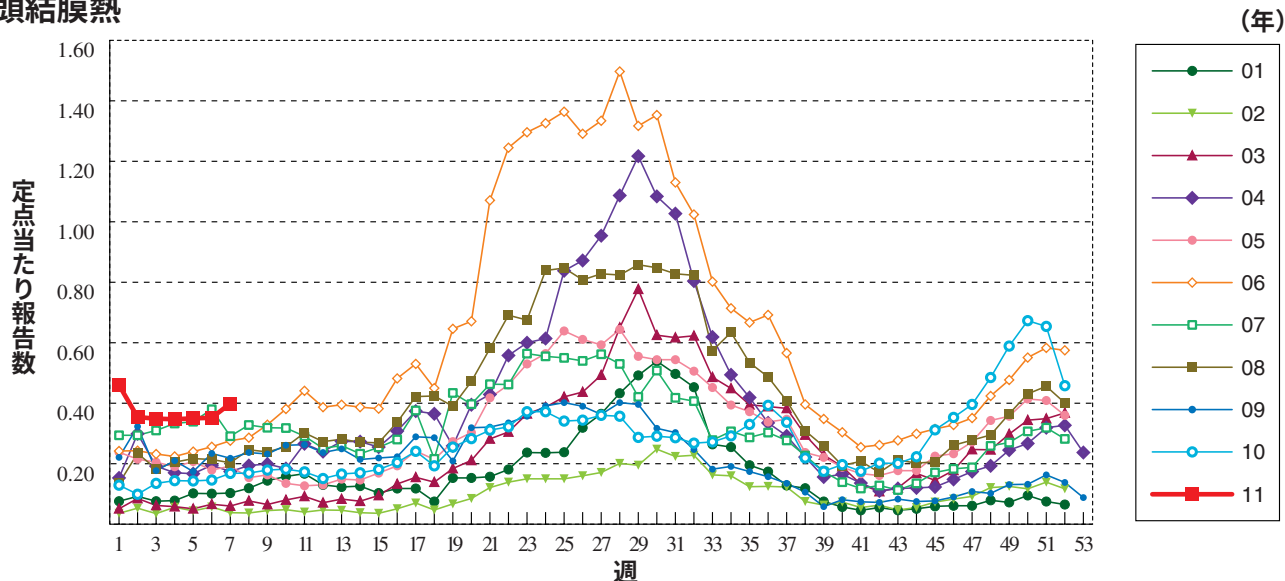


グラフ総覧(7週)

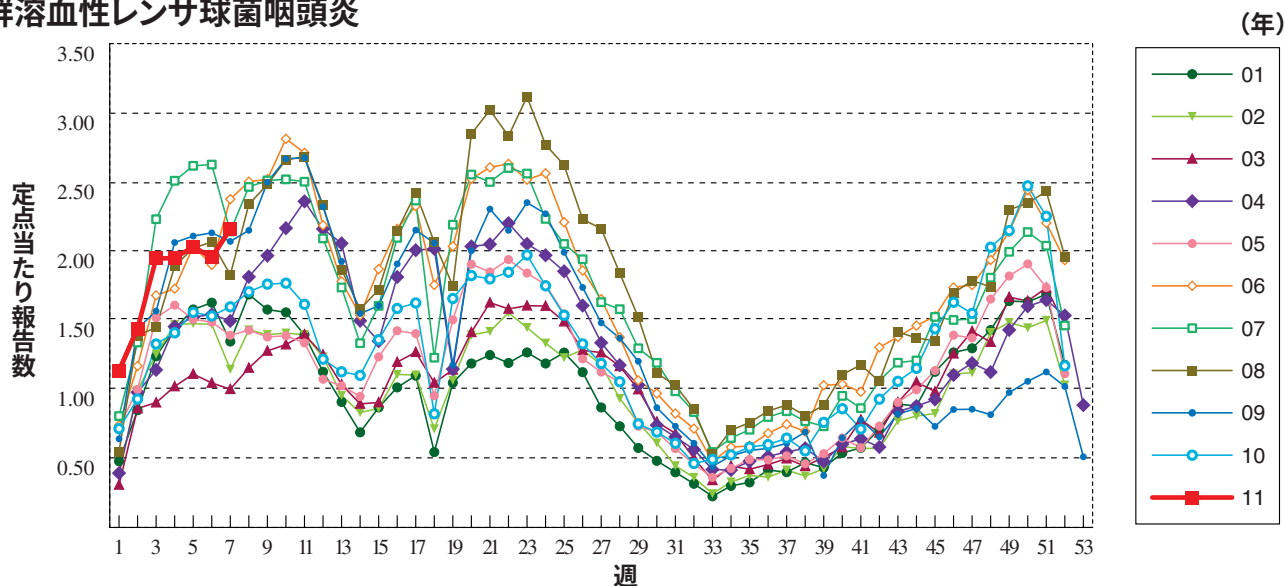
インフルエンザ



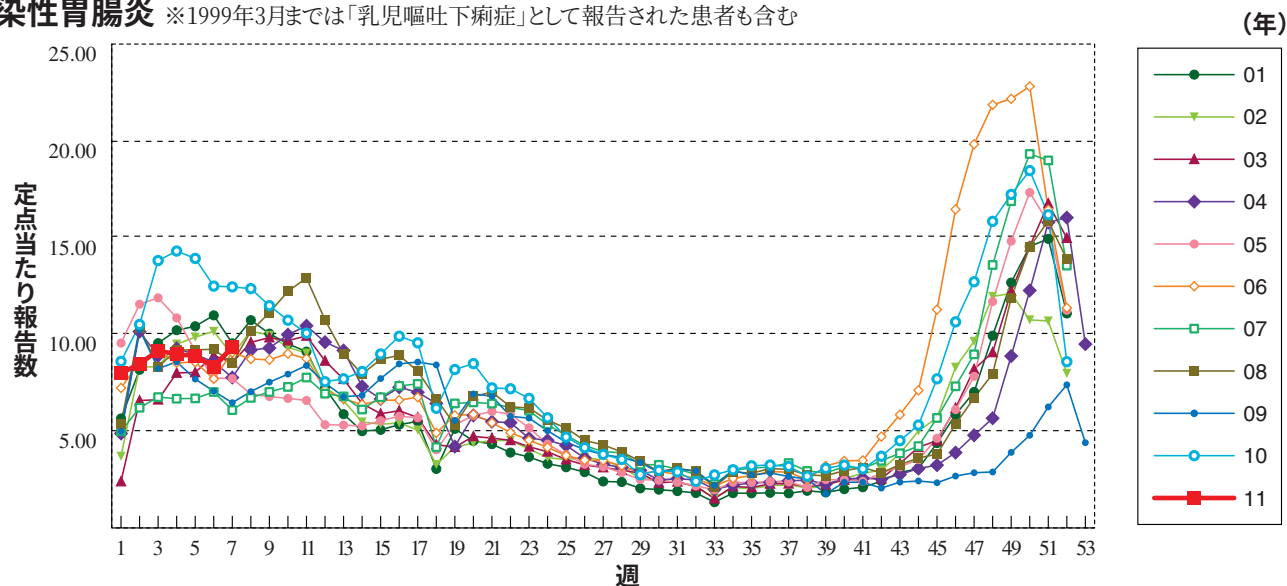
咽頭結膜熱



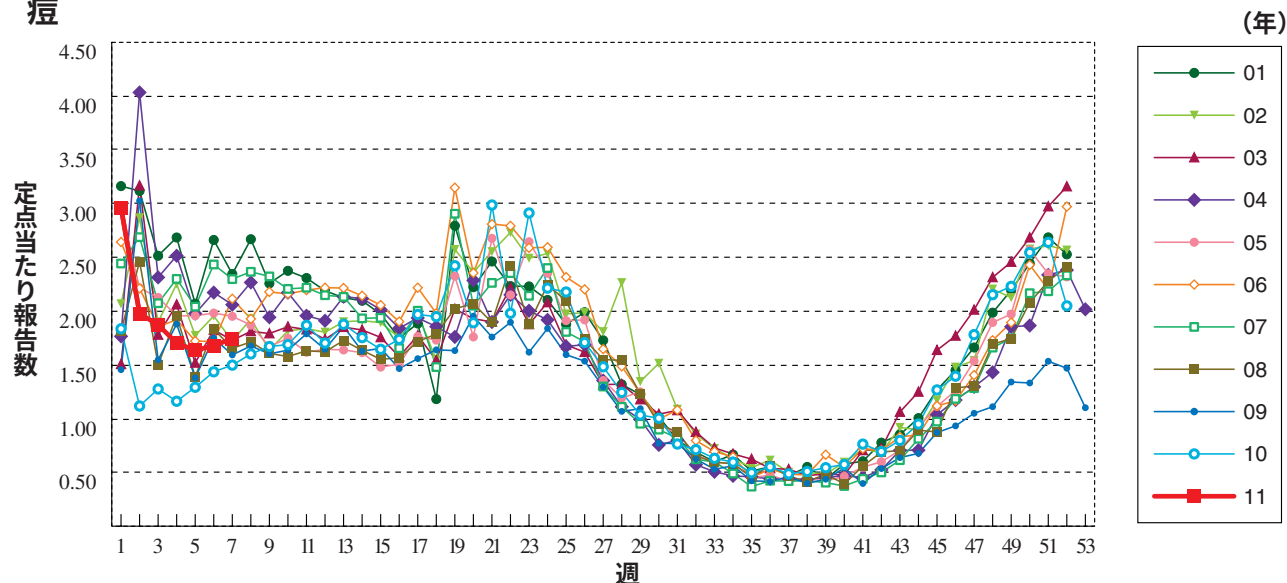
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



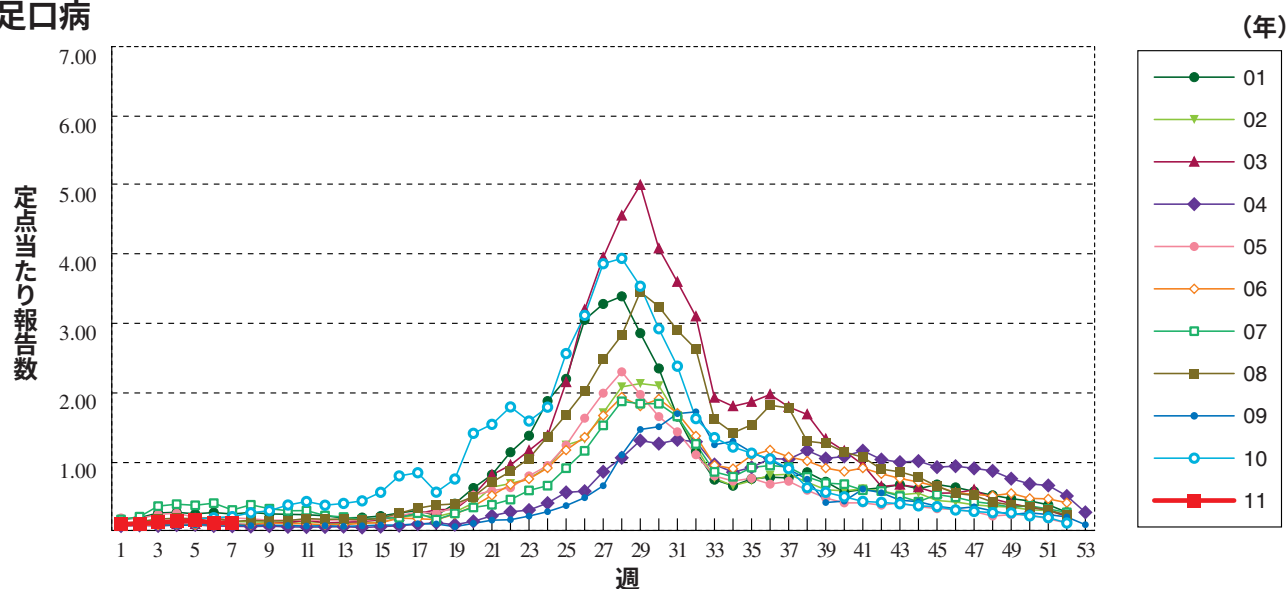
感染性胃腸炎 ※1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



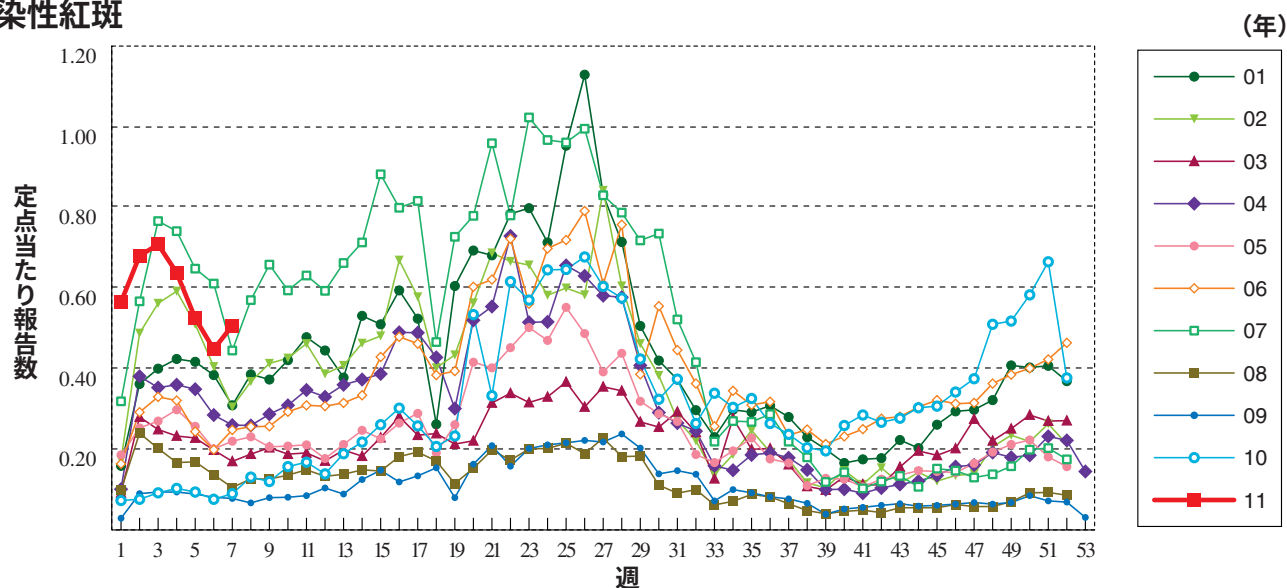
水痘



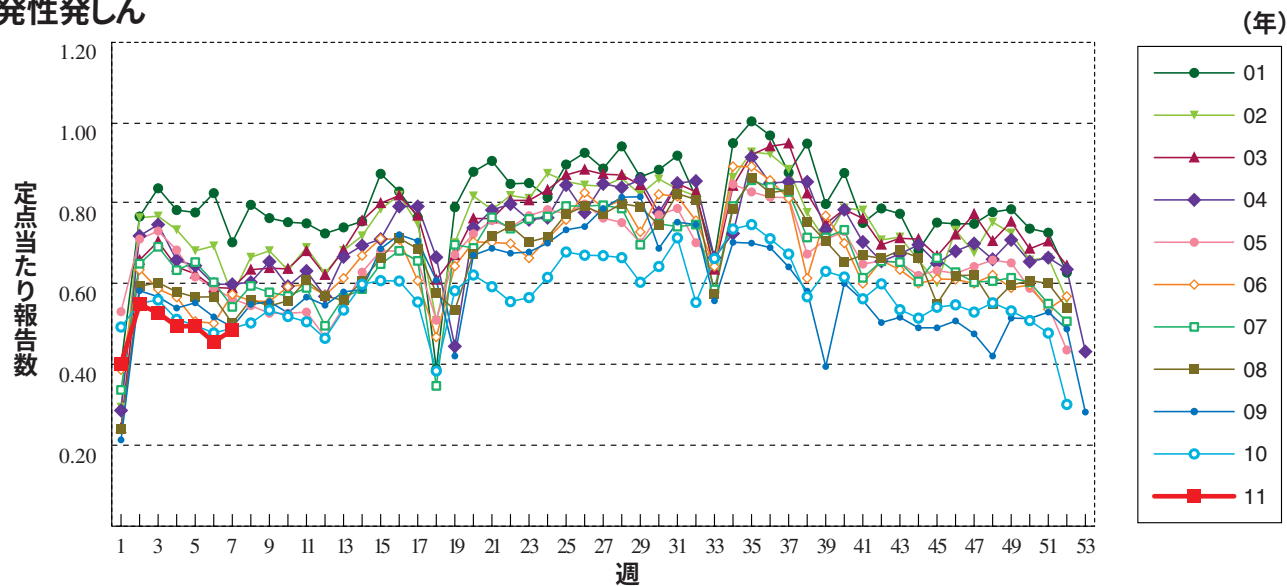
手足口病



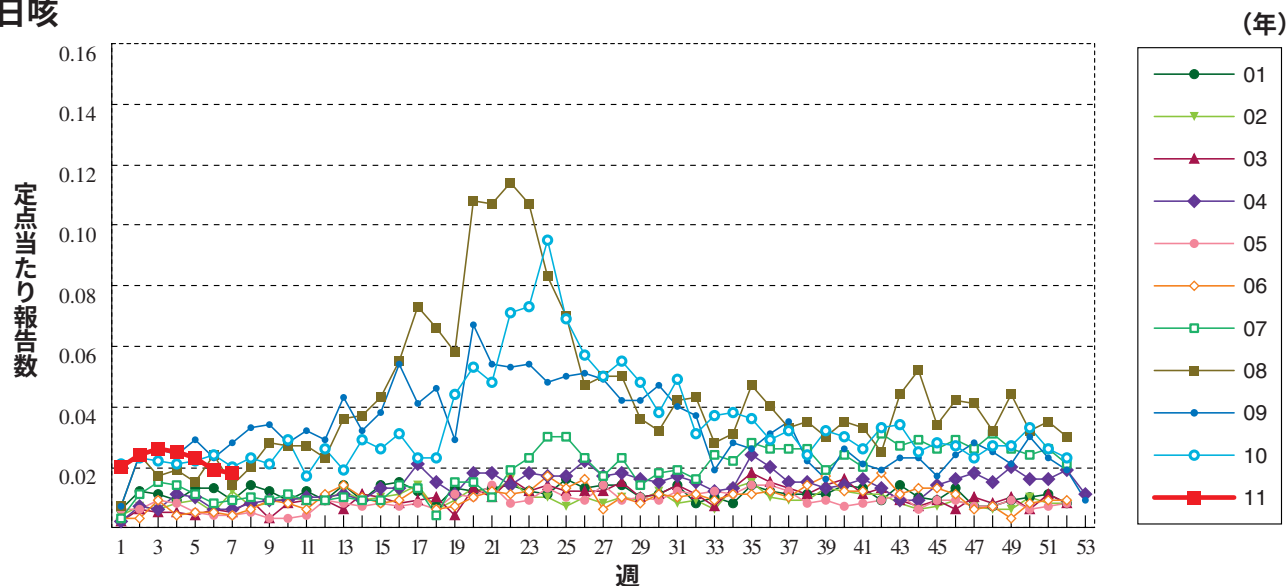
伝染性紅斑



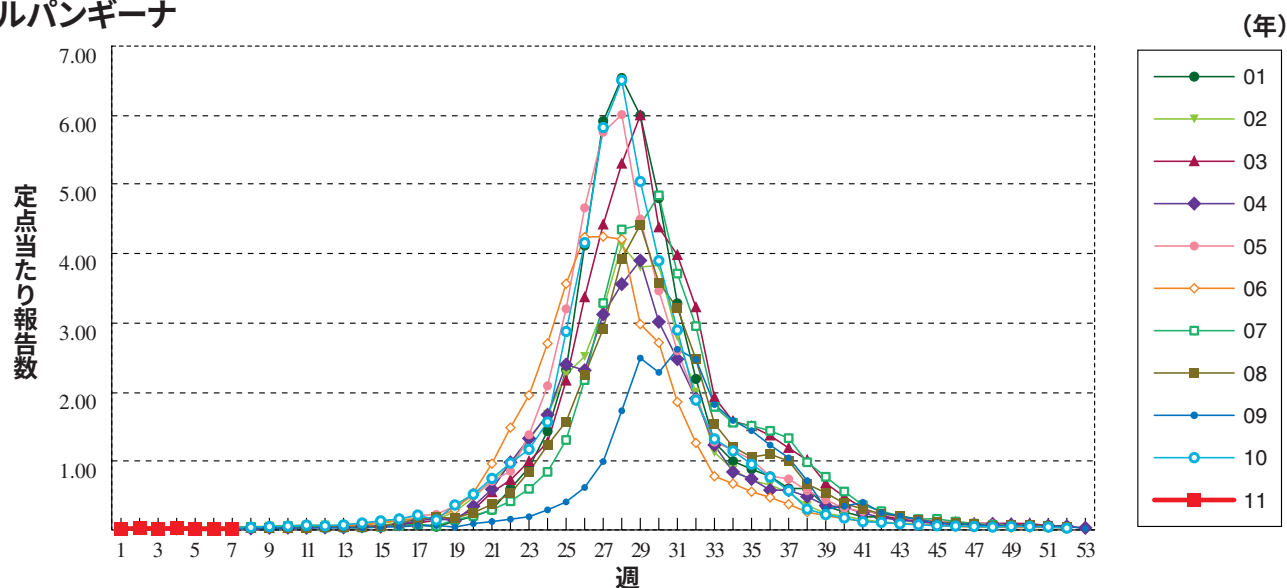
突発性発しん



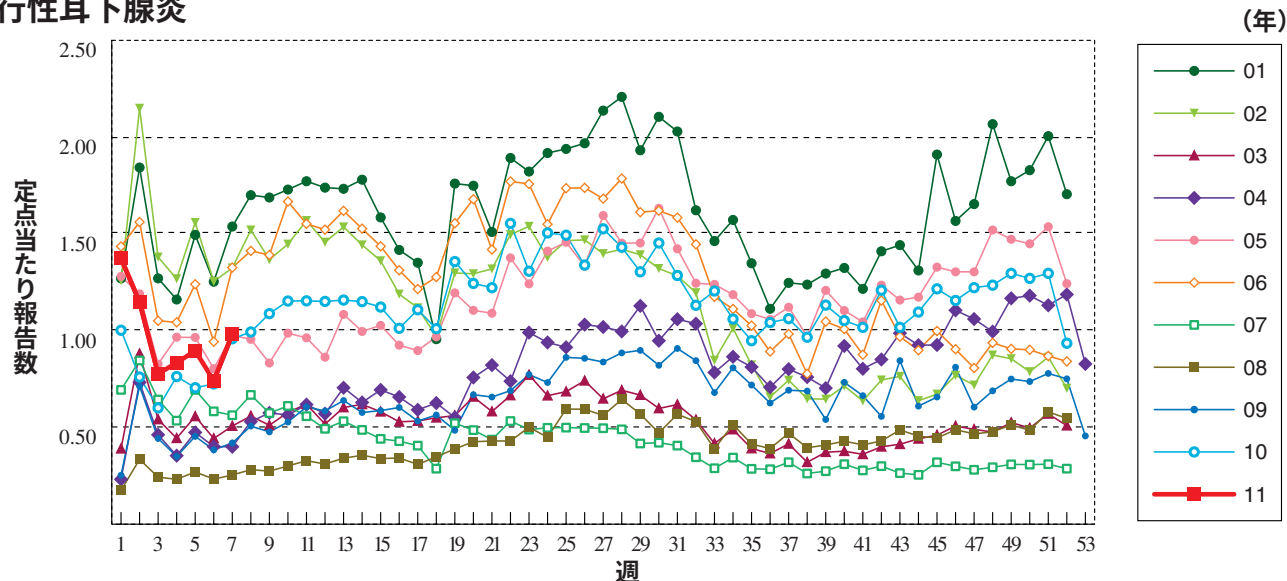
百日咳



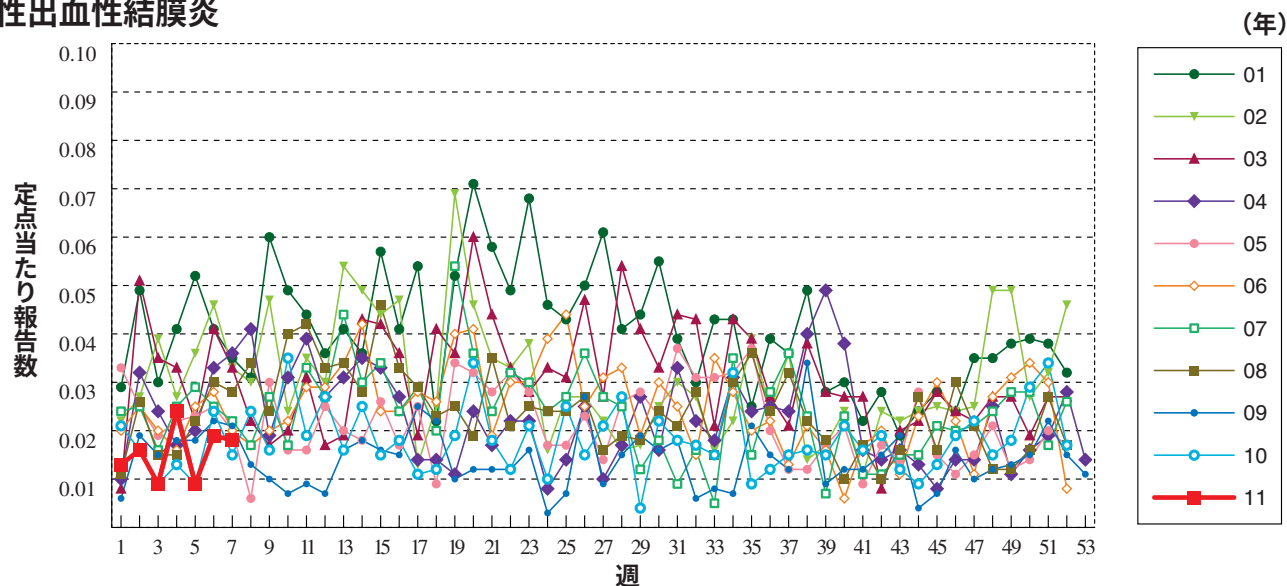
ヘルパンギーナ



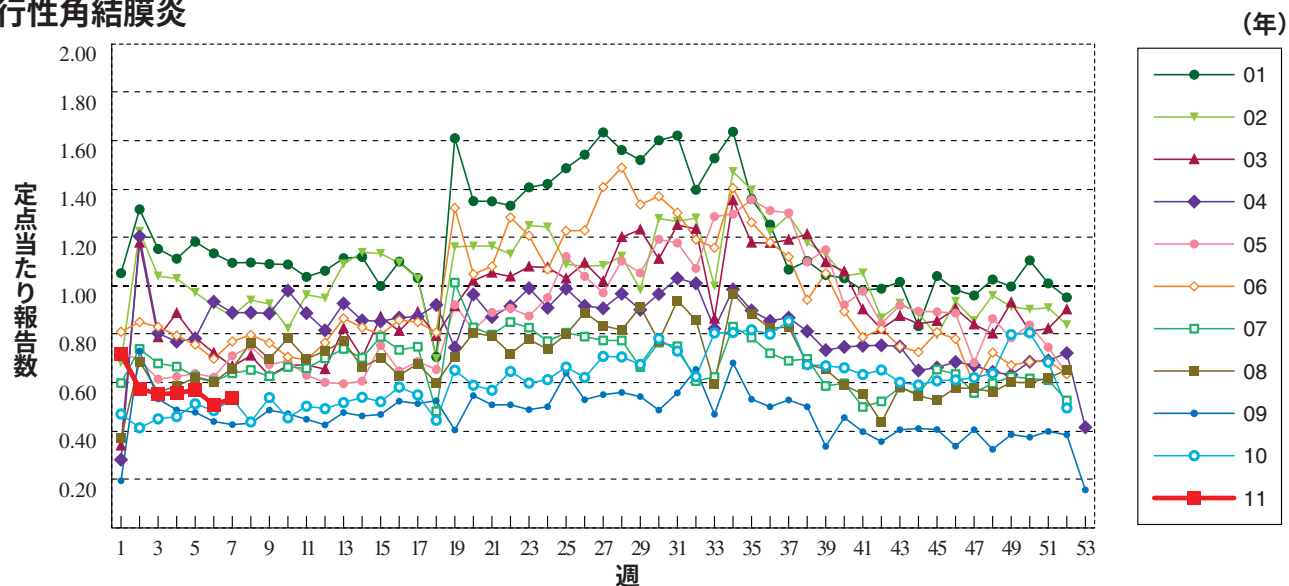
流行性耳下腺炎



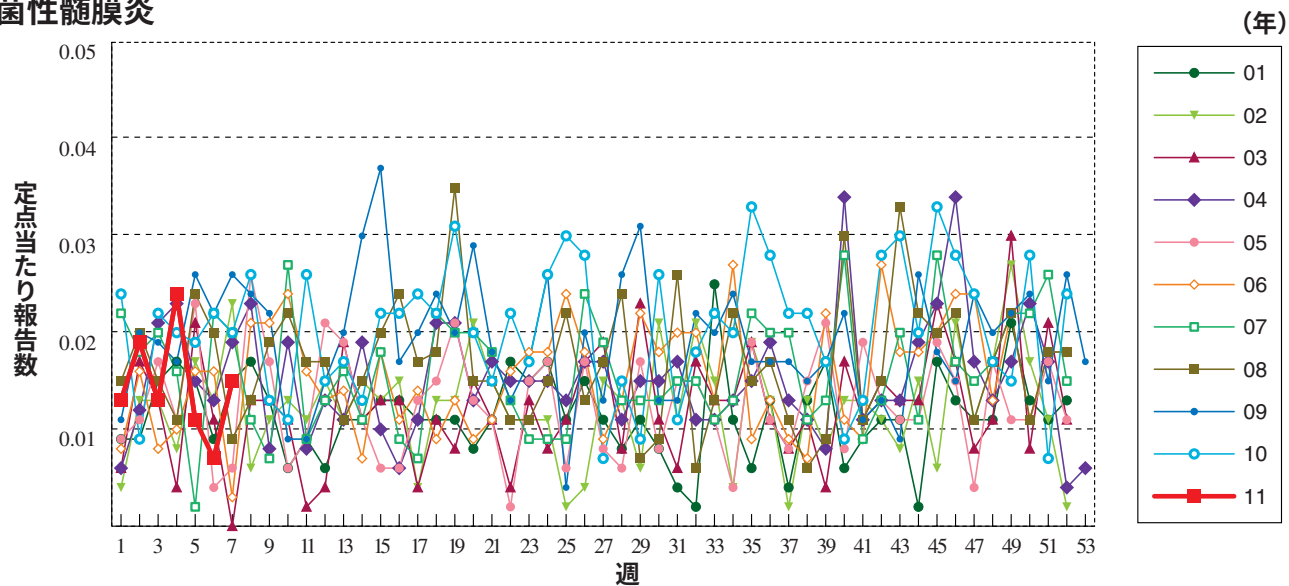
急性出血性結膜炎



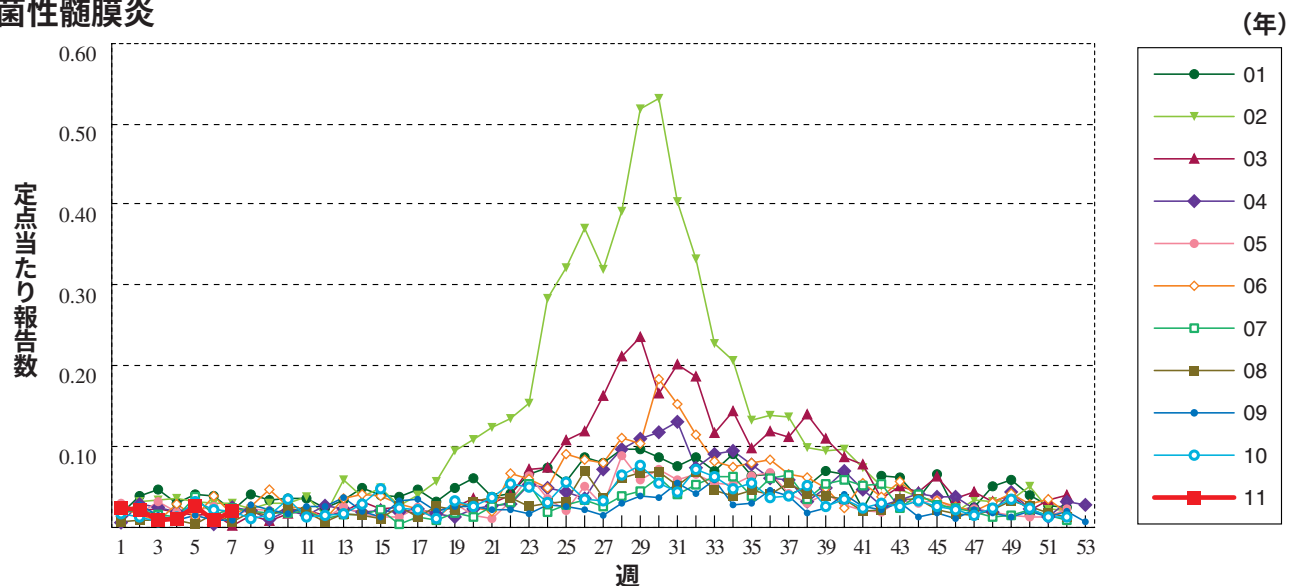
流行性角結膜炎



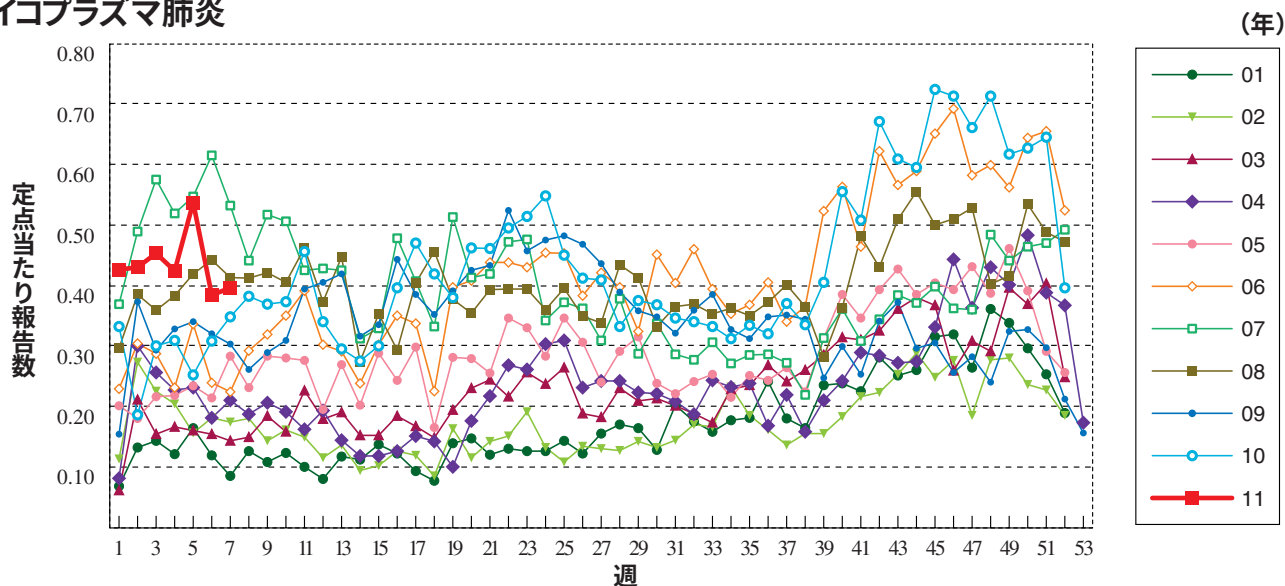
細菌性髄膜炎



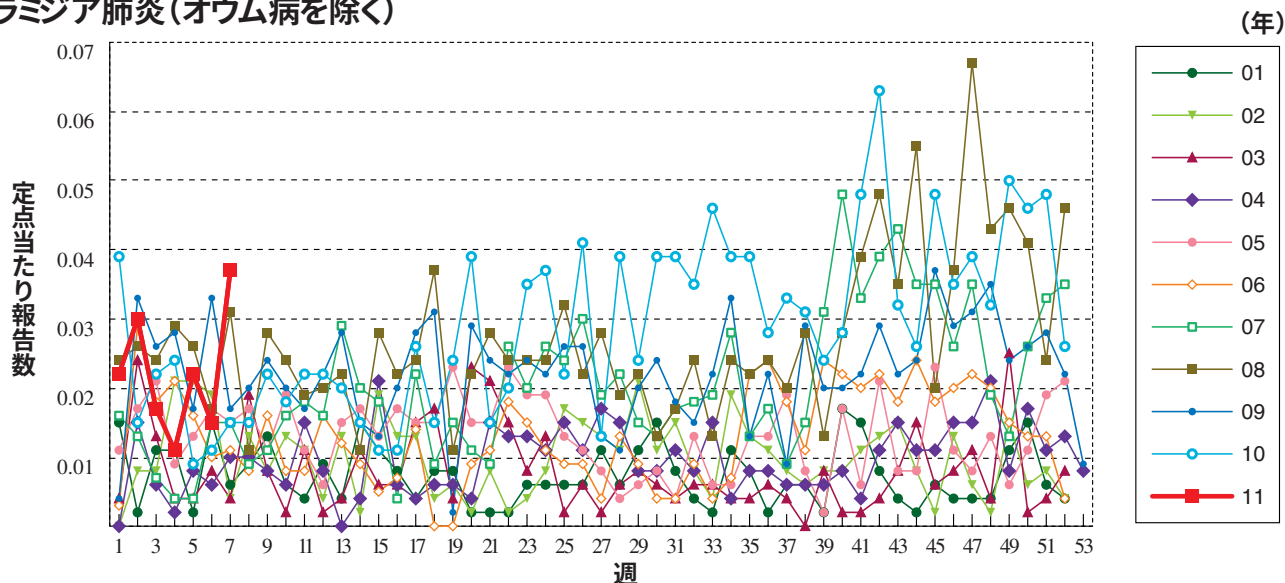
無菌性髄膜炎



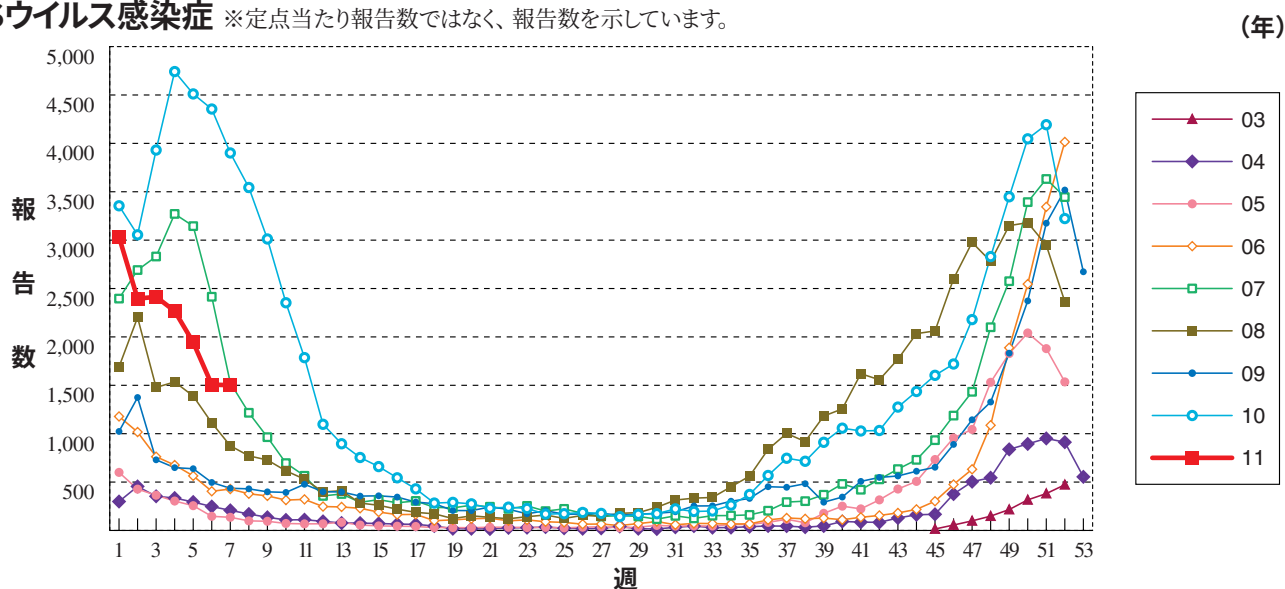
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎(オウム病を除く)



RSウイルス感染症 ※定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。





7週のデータ

注) 表中の報告数は2月23日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。
新型インフルエンザは掲載していません。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2011年7週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		痘 そう		南米出血熱		ペ ス ト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		結 核	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	314	2902
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	108
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	42
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	41
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	37
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	31
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	65
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	34
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	170
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	167
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	69	527
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	186
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	38
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	19
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	23
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	40
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	46
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	58
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	209
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	45
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	41
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	30
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	130
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	82
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	26
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	39
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	14
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	102
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	32
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	22
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	29
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	21
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	128
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	26
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	35
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	35
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	33
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	48
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	23

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年7週

	ジフテリア		重症急性 呼吸器症候群*		鳥インフル エンザ(H5N1)		コレラ		細菌性赤痢		腸管出血性 大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		E型肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	3	18	10	96	1	1	-	4	-	7
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	11	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	7	-	-	-	3	-	3
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	5	-	-	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	11	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年7週

	ウエストナイル熱		A型肝炎		エキノコックス症		黄 熱		オウム病		オムスク出血熱		回 帰 熱		キャサヌル 森 林 病		Q 熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	6	71	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	2	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	1	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年7週

	狂 犬 病		コクシジ オイデス症		サル 痘		腎症候性出血熱		西部ウマ脳炎		ダニ媒介脳炎		炭 痘		チクングニア熱		つつが虫病	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	32
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	6
東京都	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*鳥インフルエンザ(H5N1)を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年7週

	デング熱		東部ウマ脳炎		鳥インフルエンザ*		ニパウイルス感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		鼻 疽	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	2	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年7週

	ブルセラ症		ベネズエラ ウマ脳炎		ヘンドラウイルス 感 染 症		発しんチフス		ボツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス 感 染 症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。

**ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2011年7週

	リフトバレー熱		類鼻疽		レジオネラ症		レプトスピラ症		ロッキー山紅斑熱		アメーバ赤痢		ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプトスポリジウム症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	7	75	-	1	-	-	10	98	1	32	1	55	-	2
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-	4	-	1	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3	-	-
千葉県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	5	-	2	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	1	17	-	5	-	6	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1	9	1	2	-	5	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1	3	-	-	-	4	-	-
富山県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	2	-	-	-	2	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	2	-	-
愛知県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	2	9	-	3	-	4	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	1	3	-	3	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
島根県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	2	-	2	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	5	-	1	1	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年7週

	クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		梅毒		破傷風		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	10	4	32	15	169	1	10	-	-	-	-	10	78	-	3	-	-
北海道	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	3	5	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	2	1	6	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-
千葉県	-	1	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
東京都	-	3	-	5	3	46	-	2	-	-	-	-	3	18	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	5	-	10	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
富山県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	1	4	1	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	1	-	9	-	1	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
大阪府	-	1	1	3	3	28	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	2	1	9	-	1	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	2	7	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	3	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2011年7週

	バンコマイシン耐性 腸球菌感染症		風 し ん		麻 し ん	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	4	1	11	5	59
北海道	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	2	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	1	3
千葉県	-	1	-	2	-	3
東京都	-	-	-	-	1	14
神奈川県	-	1	-	-	1	3
新潟県	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	1	2
静岡県	-	-	-	1	-	2
愛知県	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	2	1	1	1	2
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	1	-	12
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	1

*鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2011年7週

	インフルエンザ*		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	80667	16.35	1255	0.40	6795	2.16	29435	9.36	5486	1.74	363	0.12	1596	0.51	1530	0.49	58	0.02
北海道	3783	16.59	57	0.40	502	3.51	1238	8.66	290	2.03	11	0.08	114	0.80	43	0.30	3	0.02
青森県	392	6.03	13	0.31	37	0.88	287	6.83	93	2.21	9	0.21	19	0.45	14	0.33	-	-
岩手県	497	7.77	7	0.18	53	1.33	283	7.08	33	0.83	17	0.43	9	0.23	14	0.35	-	-
宮城県	522	5.44	7	0.12	148	2.47	748	12.47	114	1.90	5	0.08	67	1.12	44	0.73	-	-
秋田県	508	9.24	14	0.40	49	1.40	287	8.20	54	1.54	2	0.06	25	0.71	12	0.34	2	0.06
山形県	545	11.35	17	0.57	141	4.70	286	9.53	147	4.90	1	0.03	20	0.67	15	0.50	-	-
福島県	795	9.94	7	0.15	49	1.02	396	8.25	93	1.94	2	0.04	21	0.44	31	0.65	-	-
茨城県	1418	11.82	12	0.16	124	1.65	385	5.13	118	1.57	-	-	35	0.47	29	0.39	1	0.01
栃木県	807	10.62	5	0.10	41	0.85	276	5.75	57	1.19	4	0.08	27	0.56	21	0.44	1	0.02
群馬県	1617	16.50	7	0.12	89	1.48	400	6.67	101	1.68	5	0.08	16	0.27	32	0.53	-	-
埼玉県	5165	21.00	67	0.44	372	2.42	1314	8.53	258	1.68	17	0.11	88	0.57	88	0.57	-	-
千葉県	3521	16.93	37	0.28	318	2.41	1379	10.45	196	1.48	22	0.17	69	0.52	54	0.41	6	0.05
東京都	6758	16.28	85	0.33	650	2.50	2735	10.52	301	1.16	15	0.06	116	0.45	150	0.58	11	0.04
神奈川県	7279	21.92	23	0.11	344	1.67	1896	9.20	317	1.54	7	0.03	58	0.28	119	0.58	1	0.00
新潟県	2129	22.18	51	0.84	208	3.41	278	4.56	177	2.90	3	0.05	25	0.41	21	0.34	-	-
富山県	1433	29.85	64	2.21	55	1.90	217	7.48	65	2.24	-	-	2	0.07	7	0.24	-	-
石川県	830	17.29	20	0.69	220	7.59	213	7.34	76	2.62	-	-	35	1.21	21	0.72	-	-
福井県	594	18.56	30	1.36	112	5.09	349	15.86	45	2.05	8	0.36	18	0.82	10	0.45	-	-
山梨県	378	9.45	4	0.17	34	1.42	266	11.08	24	1.00	-	-	12	0.50	8	0.33	-	-
長野県	1604	18.23	9	0.16	128	2.33	602	10.95	90	1.64	2	0.04	12	0.22	18	0.33	2	0.04
岐阜県	1708	19.63	25	0.47	44	0.83	453	8.55	54	1.02	8	0.15	12	0.23	20	0.38	-	-
静岡県	1942	14.60	28	0.33	90	1.06	853	10.04	129	1.52	2	0.02	59	0.69	33	0.39	-	-
愛知県	6295	32.28	71	0.39	318	1.76	1853	10.24	257	1.42	33	0.18	56	0.31	93	0.51	-	-
三重県	1612	22.39	24	0.53	76	1.69	486	10.80	76	1.69	8	0.18	19	0.42	18	0.40	-	-
滋賀県	948	17.89	17	0.53	51	1.59	279	8.72	40	1.25	3	0.09	20	0.63	13	0.41	-	-
京都府	1177	9.65	7	0.10	61	0.84	618	8.47	55	0.75	1	0.01	23	0.32	28	0.38	-	-
大阪府	2979	10.00	72	0.37	398	2.04	1816	9.31	268	1.37	26	0.13	68	0.35	87	0.45	1	0.01
兵庫県	2500	12.56	90	0.70	229	1.78	1381	10.71	211	1.64	5	0.04	45	0.35	48	0.37	1	0.01
奈良県	508	9.24	16	0.46	41	1.17	214	6.11	33	0.94	2	0.06	11	0.31	7	0.20	-	-
和歌山県	379	7.58	13	0.42	43	1.39	237	7.65	60	1.94	5	0.16	17	0.55	14	0.45	2	0.06
鳥取県	198	6.83	7	0.37	89	4.68	144	7.58	30	1.58	-	-	18	0.95	11	0.58	-	-
島根県	451	11.87	4	0.17	55	2.39	229	9.96	16	0.70	-	-	13	0.57	8	0.35	-	-
岡山県	1529	18.20	7	0.13	55	1.02	585	10.83	66	1.22	5	0.09	9	0.17	14	0.26	1	0.02
広島県	1935	16.83	59	0.82	224	3.11	474	6.58	91	1.26	5	0.07	17	0.24	42	0.58	10	0.14
山口県	1957	27.96	30	0.61	190	3.88	344	7.02	53	1.08	-	-	17	0.35	33	0.67	-	-
徳島県	360	9.23	2	0.08	15	0.63	197	8.21	37	1.54	2	0.08	5	0.21	15	0.63	-	-
香川県	779	15.90	8	0.27	29	0.97	240	8.00	67	2.23	-	-	6	0.20	11	0.37	-	-
愛媛県	1064	17.44	13	0.35	111	3.00	326	8.81	75	2.03	8	0.22	8	0.22	26	0.70	1	0.03
高知県	703	14.65	17	0.57	57	1.90	248	8.27	65	2.17	13	0.43	1	0.03	10	0.33	1	0.03
福岡県	4987	25.19	66	0.55	415	3.46	1406	11.72	307	2.56	28	0.23	198	1.65	79	0.66	4	0.03
佐賀県	471	12.08	9	0.39	36	1.57	190	8.26	57	2.48	7	0.30	19	0.83	13	0.57	2	0.09
長崎県	1118	15.97	9	0.20	56	1.27	549	12.48	89	2.02	2	0.05	27	0.61	18	0.41	-	-
熊本県	881	11.01	25	0.52	70	1.46	498	10.38	100	2.08	2	0.04	21	0.44	33	0.69	-	-
大分県	1298	22.38	10	0.28	52	1.44	686	19.06	145	4.03	2	0.06	24	0.67	33	0.92	-	-
宮崎県	815	13.81	18	0.50	168	4.67	645	17.92	154	4.28	12	0.33	56	1.56	32	0.89	-	-
鹿児島県	985	10.59	40	0.73	102	1.85	533	9.69	153	2.78	1	0.02	34	0.62	33	0.60	-	-
沖縄県	513	8.84	32	0.94	46	1.35	116	3.41	149	4.38	53	1.56	5	0.15	7	0.21	8	0.24

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2011年7週

	ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎		RSウイルス感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数
総 数	60	0.02	3085	0.98	12	0.02	362	0.54	7	0.02	9	0.02	182	0.40	17	0.04	1501
北海道	4	0.03	185	1.29	-	-	12	0.41	-	-	-	-	8	0.35	-	-	53
青森県	-	-	74	1.76	-	-	6	0.55	-	-	-	-	9	1.50	-	-	16
岩手県	6	0.15	70	1.75	-	-	-	-	-	-	-	-	7	0.37	-	-	20
宮城県	-	-	56	0.93	1	0.08	3	0.25	1	0.08	-	-	25	2.08	-	-	43
秋田県	-	-	13	0.37	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.25	-	-	15
山形県	-	-	16	0.53	-	-	4	0.50	-	-	-	-	1	0.10	1	0.10	2
福島県	-	-	30	0.63	-	-	9	0.75	-	-	-	-	8	1.14	-	-	159
茨城県	-	-	49	0.65	-	-	13	0.76	-	-	-	-	4	0.31	-	-	11
栃木県	-	-	37	0.77	-	-	5	0.42	1	0.14	-	-	6	0.86	3	0.43	14
群馬県	1	0.02	43	0.72	-	-	13	0.87	1	0.13	-	-	3	0.38	-	-	16
埼玉県	1	0.01	71	0.46	3	0.07	17	0.40	-	-	-	-	11	1.22	-	-	31
千葉県	-	-	97	0.73	3	0.10	16	0.52	-	-	1	0.13	2	0.25	1	0.13	22
東京都	1	0.00	72	0.28	-	-	12	0.32	1	0.04	1	0.04	14	0.58	1	0.04	57
神奈川県	2	0.01	127	0.62	1	0.02	39	0.93	1	0.14	-	-	1	0.14	-	-	29
新潟県	-	-	124	2.03	-	-	5	0.56	-	-	-	-	6	0.50	8	0.67	24
富山県	1	0.03	35	1.21	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.40	-	-	6
石川県	-	-	17	0.59	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.40	-	-	9
福井県	1	0.05	2	0.09	-	-	3	1.00	-	-	-	-	2	0.33	-	-	3
山梨県	-	-	13	0.54	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.10	-	-	10
長野県	-	-	293	5.33	-	-	8	0.73	-	-	-	-	4	0.36	-	-	49
岐阜県	-	-	16	0.30	-	-	3	0.27	-	-	-	-	3	0.60	-	-	12
静岡県	-	-	53	0.62	-	-	6	0.30	-	-	-	-	3	0.33	-	-	45
愛知県	2	0.01	83	0.46	-	-	13	0.39	-	-	-	-	6	0.40	-	-	38
三重県	2	0.04	8	0.18	-	-	1	0.08	-	-	-	-	3	0.33	1	0.11	15
滋賀県	1	0.03	34	1.06	-	-	1	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-	10
京都府	-	-	32	0.44	-	-	12	0.71	-	-	-	-	-	-	-	-	7
大阪府	2	0.01	140	0.72	-	-	19	0.37	-	-	1	0.07	4	0.27	1	0.07	109
兵庫県	5	0.04	169	1.31	-	-	19	0.54	-	-	-	-	-	-	-	-	87
奈良県	-	-	20	0.57	-	-	7	0.78	-	-	1	0.17	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	48	1.55	-	-	1	0.25	1	0.09	1	0.09	1	0.09	-	-	11
鳥取県	-	-	53	2.79	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	3
島根県	-	-	36	1.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
岡山県	2	0.04	42	0.78	-	-	8	0.67	-	-	-	-	1	0.20	-	-	10
広島県	3	0.04	80	1.11	1	0.05	12	0.63	-	-	-	-	4	0.19	-	-	41
山口県	-	-	45	0.92	-	-	3	0.33	-	-	-	-	5	0.56	-	-	70
徳島県	1	0.04	43	1.79	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60
香川県	-	-	98	3.27	-	-	4	1.33	-	-	-	-	1	0.20	-	-	26
愛媛県	2	0.05	50	1.35	-	-	11	1.38	-	-	-	-	9	1.50	-	-	36
高知県	-	-	10	0.33	-	-	1	0.33	-	-	1	0.14	1	0.14	-	-	35
福岡県	-	-	122	1.02	1	0.04	16	0.62	1	0.07	-	-	2	0.13	-	-	82
佐賀県	-	-	27	1.17	-	-	-	-	-	-	1	0.17	4	0.67	-	-	10
長崎県	-	-	64	1.45	2	0.25	5	0.63	-	-	-	-	1	0.08	-	-	23
熊本県	17	0.35	80	1.67	-	-	11	1.22	-	-	-	-	1	0.07	1	0.07	37
大分県	-	-	30	0.83	-	-	4	0.80	-	-	1	0.09	-	-	-	-	44
宮崎県	1	0.03	110	3.06	-	-	8	1.33	-	-	-	-	3	0.43	-	-	37
鹿児島県	3	0.05	132	2.40	-	-	9	1.29	-	-	-	-	3	0.25	-	-	28
沖縄県	2	0.06	36	1.06	-	-	13	1.30	-	-	1	0.14	9	1.29	-	-	25

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

(注)報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2011年7週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群(SARS)						結核		鳥インフルエンザ(H5N1)		細菌性赤痢	
	サル		サル		プレーリードッグ		イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		サル	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	33	-	2
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2011年7週

	ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	鳥類		犬	
	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-

感染症週報 第13巻 第7号 2011年3月4日発行

発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課

厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター

〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

<国立感染症研究所 感染症情報センター>

<http://www.mhlw.go.jp/>

<厚生労働省>

<http://www.forth.go.jp/>

<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。